

七ヶ浜町
町民のスポーツ実施に関するアンケート調査
報告書

令和2年3月

特定非営利活動法人アクアゆめクラブ

目 次

I.調査の概要	3
1.調査の目的	3
2.調査項目	3
3.調査設計	3
4.発送・回収の状況	4
5.アンケート回収内訳	5
6.アンケート集計結果及び分析	5
II.回答者の属性	6
III.調査結果の詳細	13
1.健康状態について	13
2.ライフスタイルについて	18
3.運動やスポーツの実施状況について	22
IV.調査結果のまとめ	39
1.健康状態について	39
2.ライフスタイルについて	39
3.運動やスポーツの実施状況について	39
4.その他	40

I.調査の概要

1. 調査の目的

NPO 法人アクアゆめクラブは、七ヶ浜町のスポーツ振興を担う総合型地域スポーツクラブとして平成 17 年に設立し、子どもから高齢者まで多世代の方がスポーツに親しめるよう様々なスポーツ事業に取り組んできました。設立から今年 15 年を迎え、今後のスポーツ振興の在り方を探るべく、七ヶ浜町民のニーズを把握し、より地域とともに成長できる総合型クラブを運営できるようアンケート調査を実施します。

2. 調査項目

- (1) 基本的事項（性別・年代・居住地・職業・情報収集）
- (2) 健康に関する意識について
- (3) ライフスタイルについて
- (4) スポーツ実施の実態について
- (5) 町内のスポーツ環境について
- (6) 今後の展望

3. 調査設計

- (1) 調査地域 七ヶ浜町内全域
- (2) 調査対象 町内に在住する小学 1 年生以上
- (3) 母集団数 18,134 人
平成 31 年 4 月 1 日現在の人口 18,765 人
小学 1 年生以上の七ヶ浜町民 18,134 人（人口の 96.6%）

	男性	女性	合計	構成比率
小学校(6~11)	460	446	906	5.0%
中学校(12~14)	278	254	532	2.9%
高校生(15~17)	293	288	581	3.2%
18~19 歳	207	188	395	2.2%
20~29 歳	848	797	1,645	9.1%
30~39 歳	961	839	1,800	9.9%
40~49 歳	1,315	1,253	2,568	14.2%
50~59 歳	1,351	1,308	2,659	14.7%
60~69 歳	1,589	1,535	3,124	17.2%
70 歳~	1,691	2,233	3,924	21.6%
合計	8,993	9,141	18,134	100.0%
男女比	49.6%	50.4%	100%	

母集団数 小学 1 年生以上の七ヶ浜町民 18,134 人（人口の 96.6%）

(4) 標本数 2,000人 (母集団の11%)

	男性	女性	合計	構成比率
小学校(6~11)	230	220	450	22.5%
中学校(12~14)	36	34	70	3.5%
高校生(15~17)	30	30	60	3.0%
18~19歳	21	19	40	2.0%
20~29歳	62	58	120	6.0%
30~39歳	64	56	120	6.0%
40~49歳	117	113	230	11.5%
50~59歳	117	113	230	11.5%
60~69歳	142	138	280	14.0%
70歳~	173	227	400	20.0%
合計	992	1,008	2,000	100.0%
男女比	49.6%	50.4%	100%	

標本数 2,000人 (母集団の11%)

(5) 抽出方法 無作為に抽出した小中学校の児童生徒及びその家族、町内の保育所の家族、七ヶ浜町体育協会会員及びその家族

(6) 調査方法 調査票調査 (指定回収)
亦楽小・松ヶ浜小・汐見小の全学年1クラス
七ヶ浜中2学年の1クラス、向洋中1・3学年の1クラス
遠山保育所

(7) 調査期間 令和2年(2020年)1月10日~1月31日

4. 発送・回収の状況

- (1) 調査対象者数 2,062人
- (2) 回収件数(率) 1,491人(72%)
- (3) 有効回収件数(率) 1,491人(72%)

5. アンケート回収内訳

	一般	子ども	合計
亦楽小学校	194	120	314
松ヶ浜小学校	198	130	328
汐見小学校	239	150	389
七ヶ浜中学校	41	23	64
向洋中学校	74	54	128
遠山保育所	68	0	68
一般	200	0	200
合計	1,014	477	1,491

6. アンケート集計結果及び分析

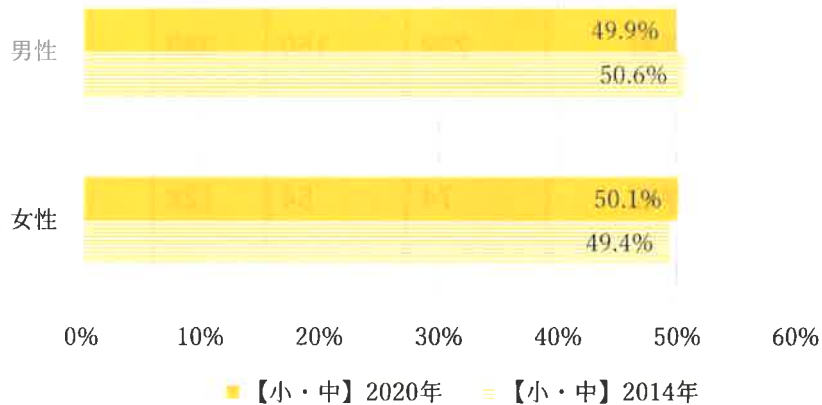
平成 26 年（2014 年）12 月にも同様のアンケートを実施。5 年前の結果と比較しながら、分析をした。

II.回答者の属性

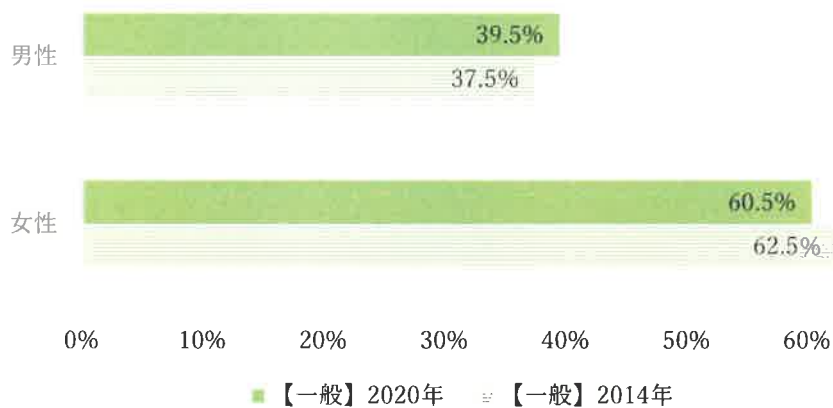
本調査の回答者（集計対象者）1,491 人の基本属性は、次の通りである。

(1) 性別

【小中学生】



【一般】

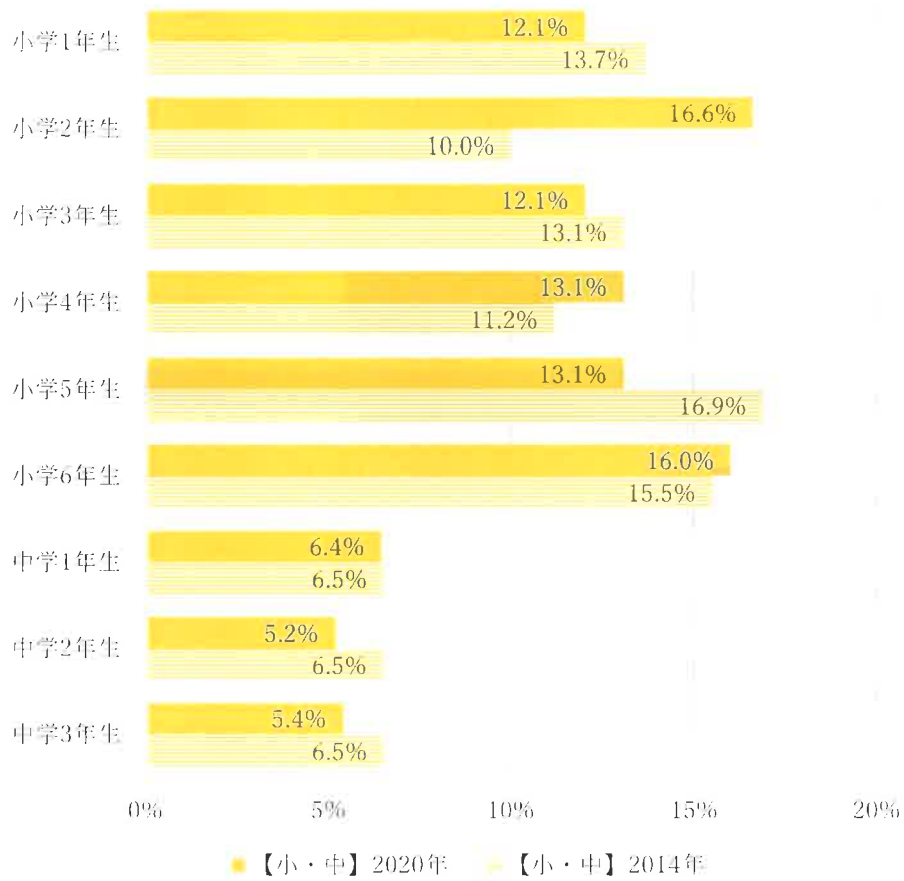


全体の回答者の性別は、「男性」が 639 人、「女性」が 852 人となっており、「女性」が「男性」を 213 人上回っている。小中学生は「男性」「女性」ほぼ同数で、一般については、「女性」が「男性」を 21 ポイント上回っている。

2014 年と比較して、小中学生、一般共にほぼ同じ回答率となった。

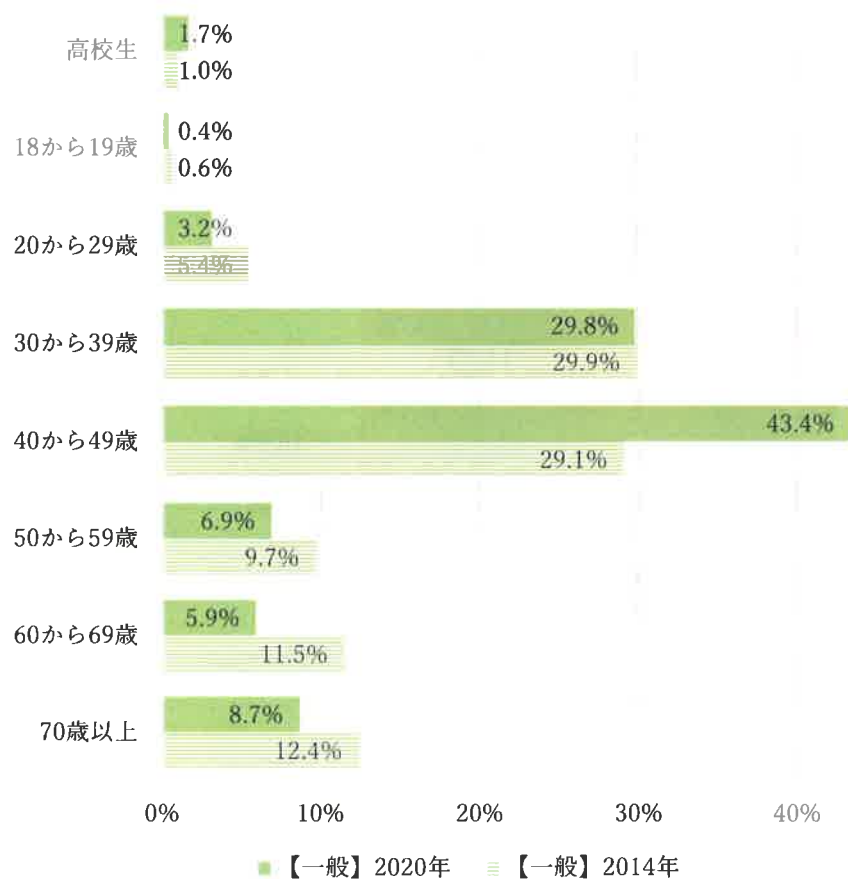
(2) 年代

【小中学生】



回答者の年代は、「小学2年生」が16.6%で最も多く、次いで「小学6年生」の16%となり、全ての学年から回答を得ることができた。

【一般】

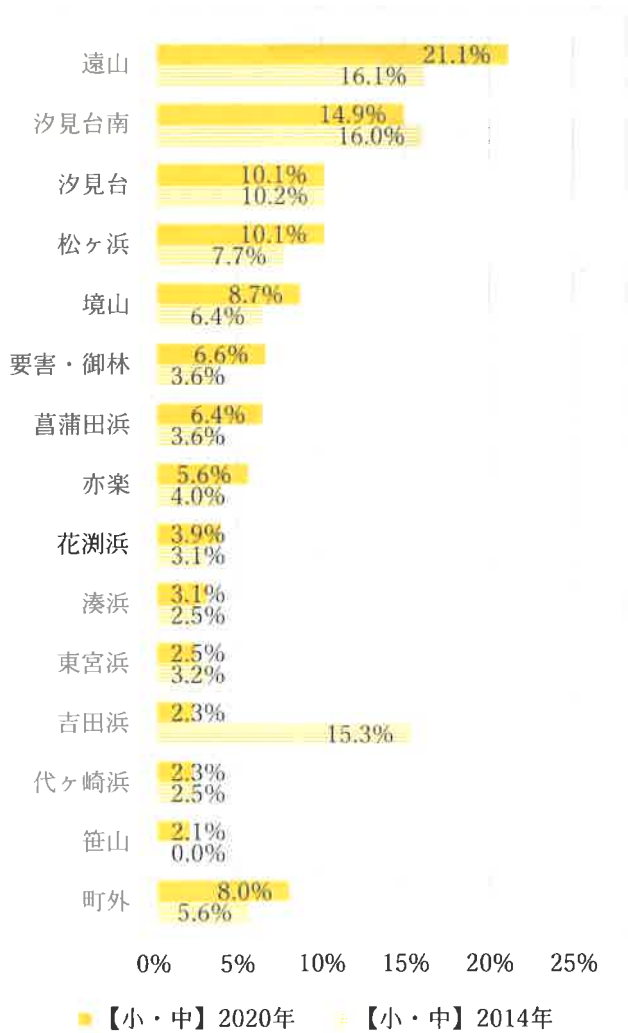


一般の回答者の年代は、「40代」が43.4%で最も多く、以下「30代」(29.8%)、「70歳以上」(8.7%)、「50代」(6.9%)、「60代」(5.9%)と続き、保育所、小学校、中学校の教育機関を通してアンケートを配布したため、このような結果となった。

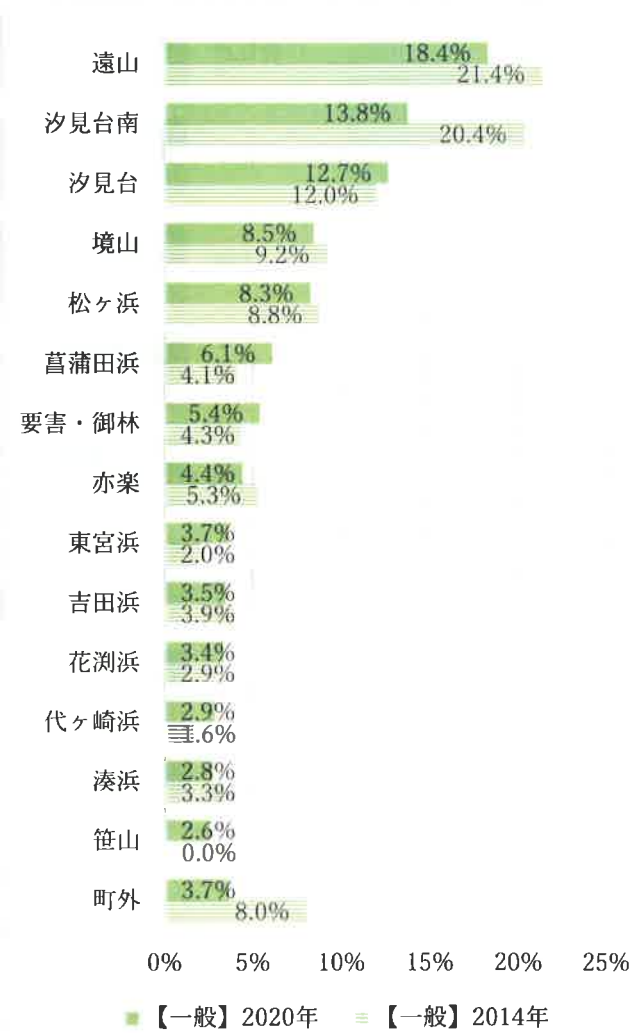
2014年も教育機関を通して行ったため、保護者(30~40代)、祖父母の年代(50~70代)が高い回答率であった。

(3) 居住地

【小中学生】



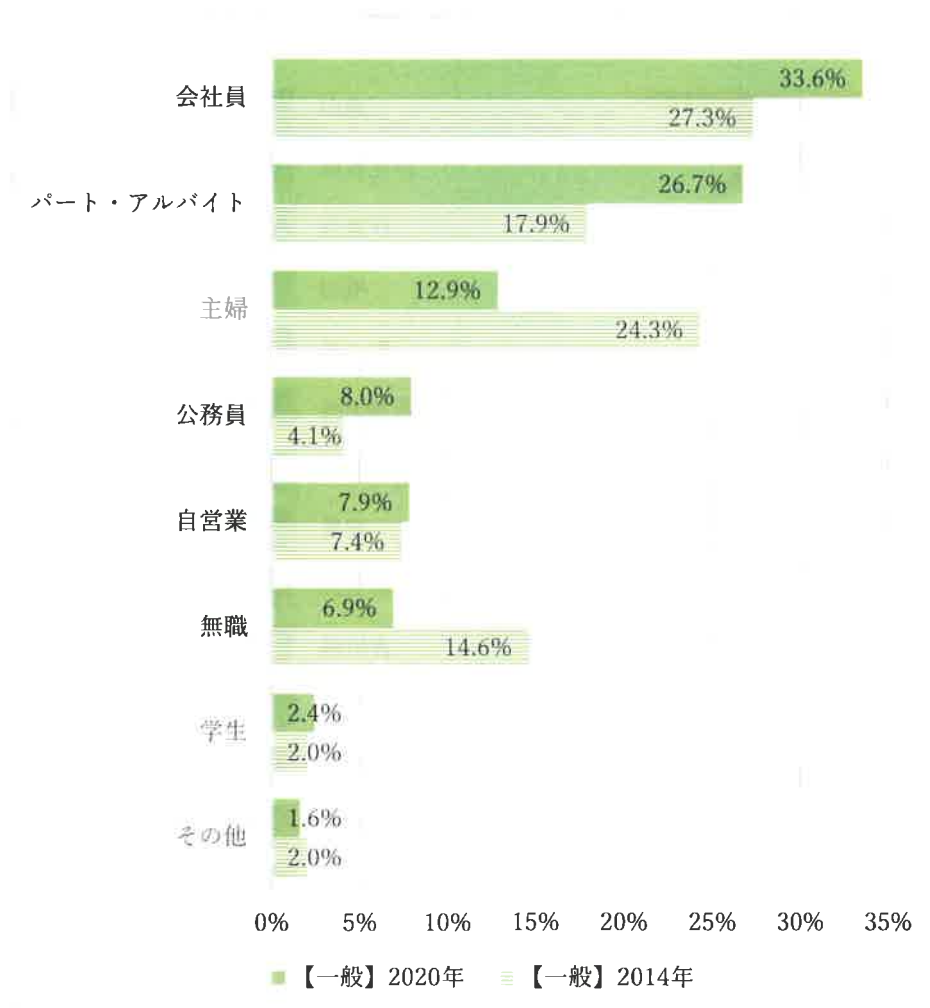
【一般】



回答者の居住地区は、「小中学生」「一般」とともに、2014年と同じく「遠山」「汐見台南」が高い割合となった。2014年は「吉田浜」の小中学生が高い割合を示したが、今回は居住割合と適合している。ほぼ全地区から回答を得ることができた。

(4) 職業

【一般】

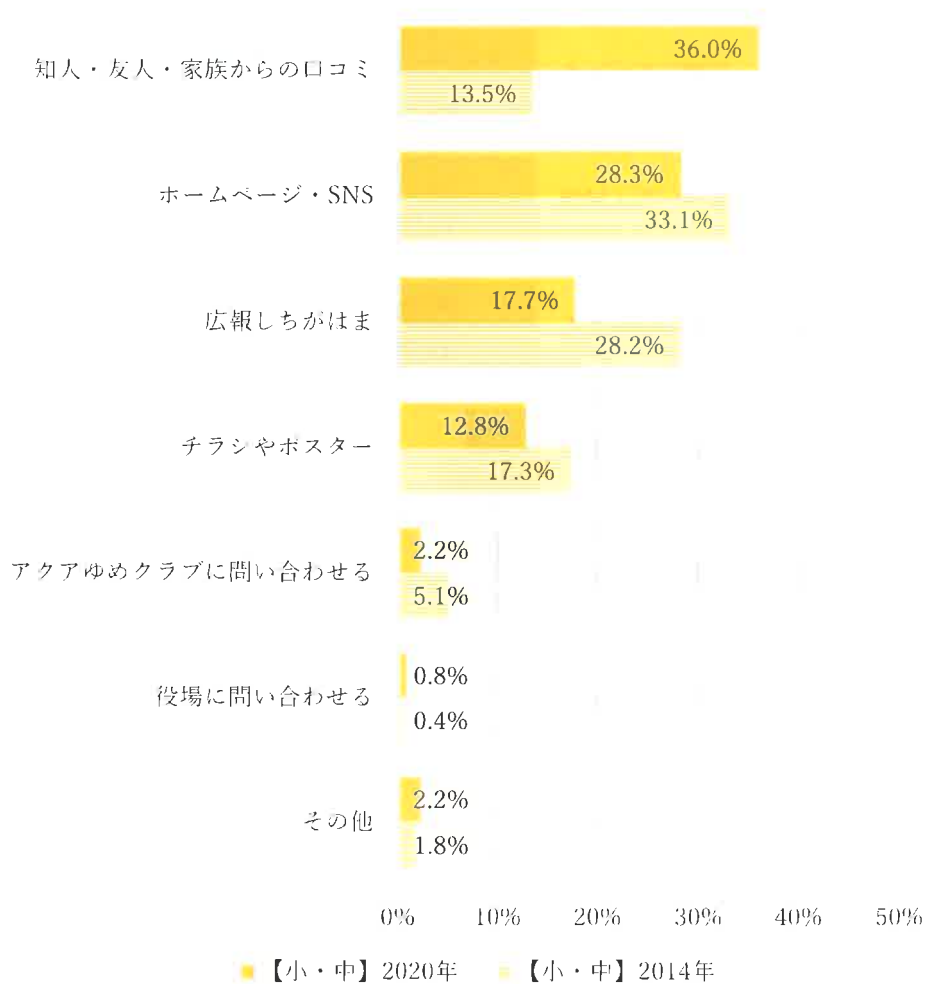


回答者の職業は「会社員」33.6%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」26.7%、「主婦」12.9%などとなっている。

2014年は「会社員」について、「主婦」、「パート・アルバイト」の順で高かった。2020年においては、「主婦」が11.4ポイントの減少になり半減し、逆に「会社員」、「パート・アルバイト」が15ポイントの増加となり、働きに出る人が多くなったといえる。

(5) 町内のスポーツ情報収集方法

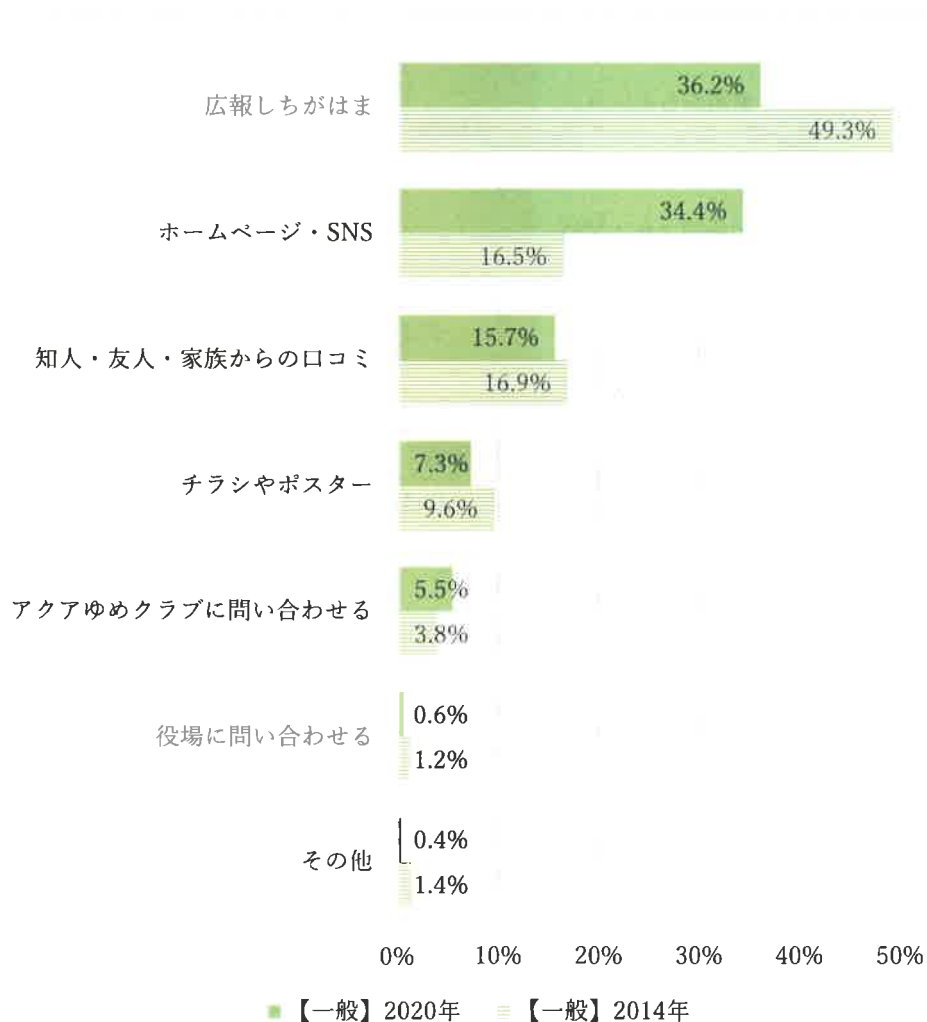
【小中学生】



「知人・友人・家族からの口コミ」36.0%、ついで「ホームページ・SNS」28.3%が高い割合を示したことから、子どもは特に口コミが多いことがわかった。

(5) 町内のスポーツ情報収集方法

【一般】



「広報誌（広報しちがはま）」36.2%、ついで「ホームページ・SNS」34.4%と約70%が情報収集に広報誌とホームページ・SNSを活用している。

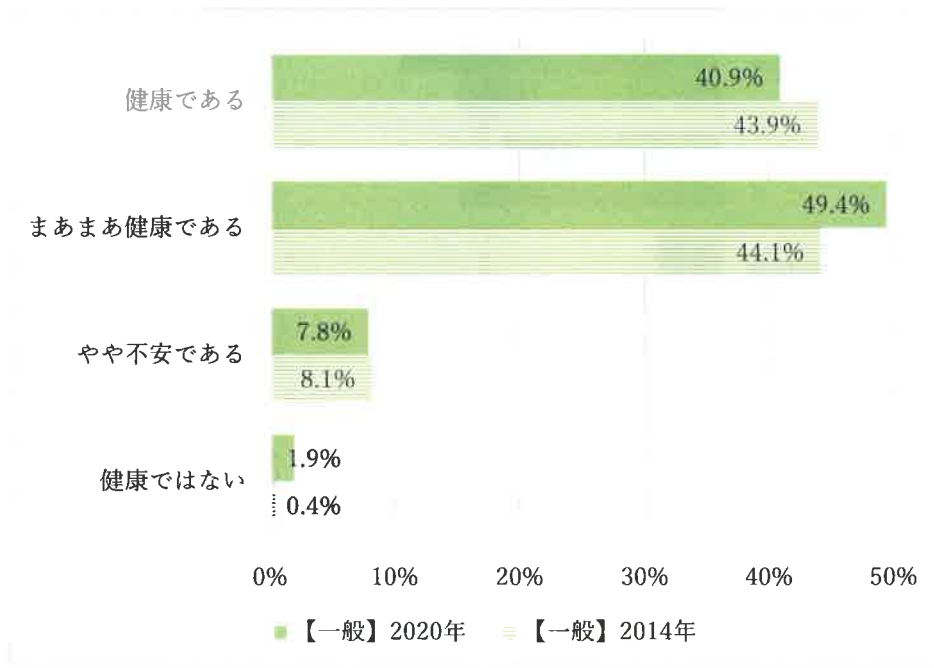
2014年と比較し、小中学生も一般も「ホームページ・SNS」での情報収集のポイントが2倍になり、約5年の間に活用頻度が高まったことがわかった。

III. 調査結果の詳細

1. 健康状態について

Q.あなたの健康状態についてお答えください。

【一般】

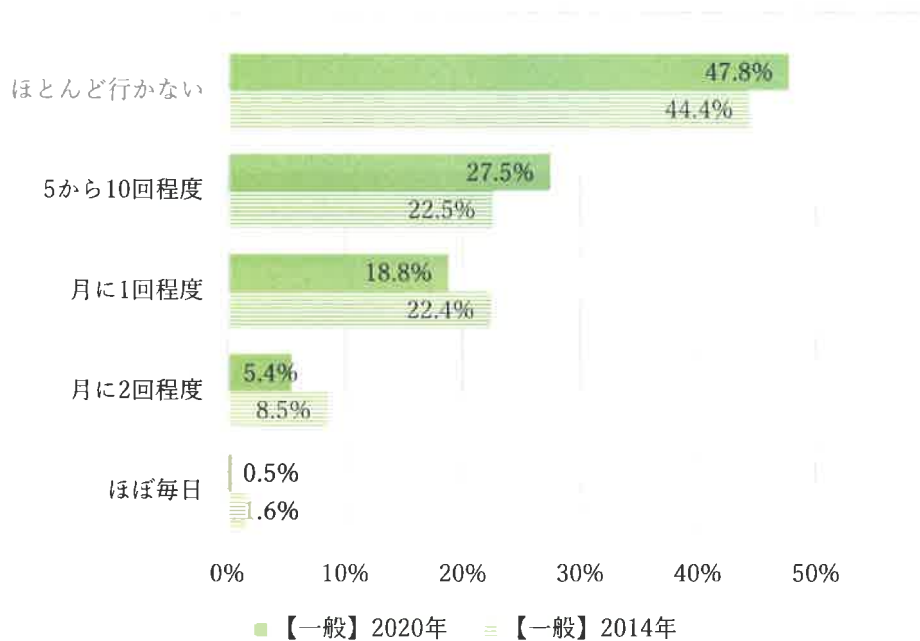


現在の健康状態は「健康である」「まあまあ健康である」を合わせると 90.3%であることから、自身では健康であると認識している方が多い。また「やや不安である」(7.8%)「健康ではない」(1.9%)と回答した理由としては、持病やストレス、運動の減少、体重増加などの回答があった。

2014年と比較して、健康であると認識している方が 2.3 ポイント増加した。

Q.あなたは1年間にどれくらい病院に行きますか。

【一般】

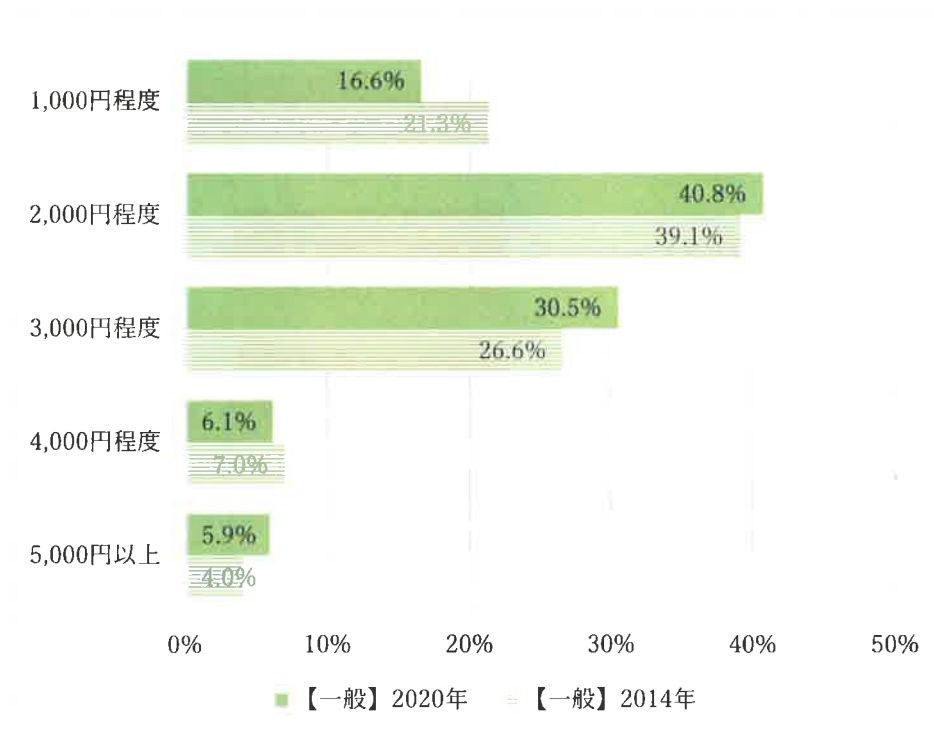


通院頻度について、「ほとんど行かない」が47.8%と一番多く、「年に5から10回程度」が27.5%、「月に1回程度」が18.8%などとなった。健康状態の回答で自分は「健康である」「まあまあ健康である」が多かったことから、通院についても健康状態と比例した結果となった。

2014年と比較すると、「ほとんど行かない」が3.4ポイント増加したものの「5から10回程度」も5ポイント増加した。

Q.あなたは平均すると1回あたりどれくらい窓口で医療費を支払っていますか。

【一般】

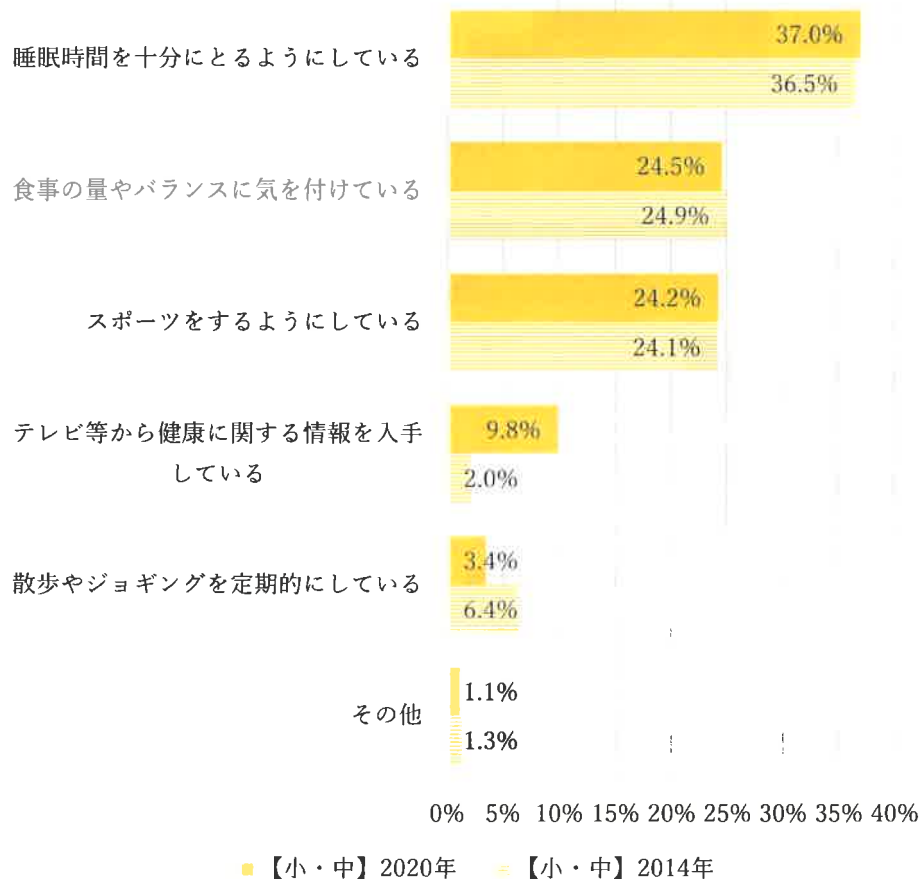


1回の通院でかかる医療費は「2,000円程度」が40.8%、「3,000円程度」が30.5%、「1,000円程度」が16.6%であった。

2014年と比較し、「3,000円程度」が3.9ポイント増加し、「1,000円程度」が4.7ポイント減少した。医療費の負担が少し増したように思われる。

Q.あなたが健康の維持増進のために心がけていることについて3つまでお答えください。

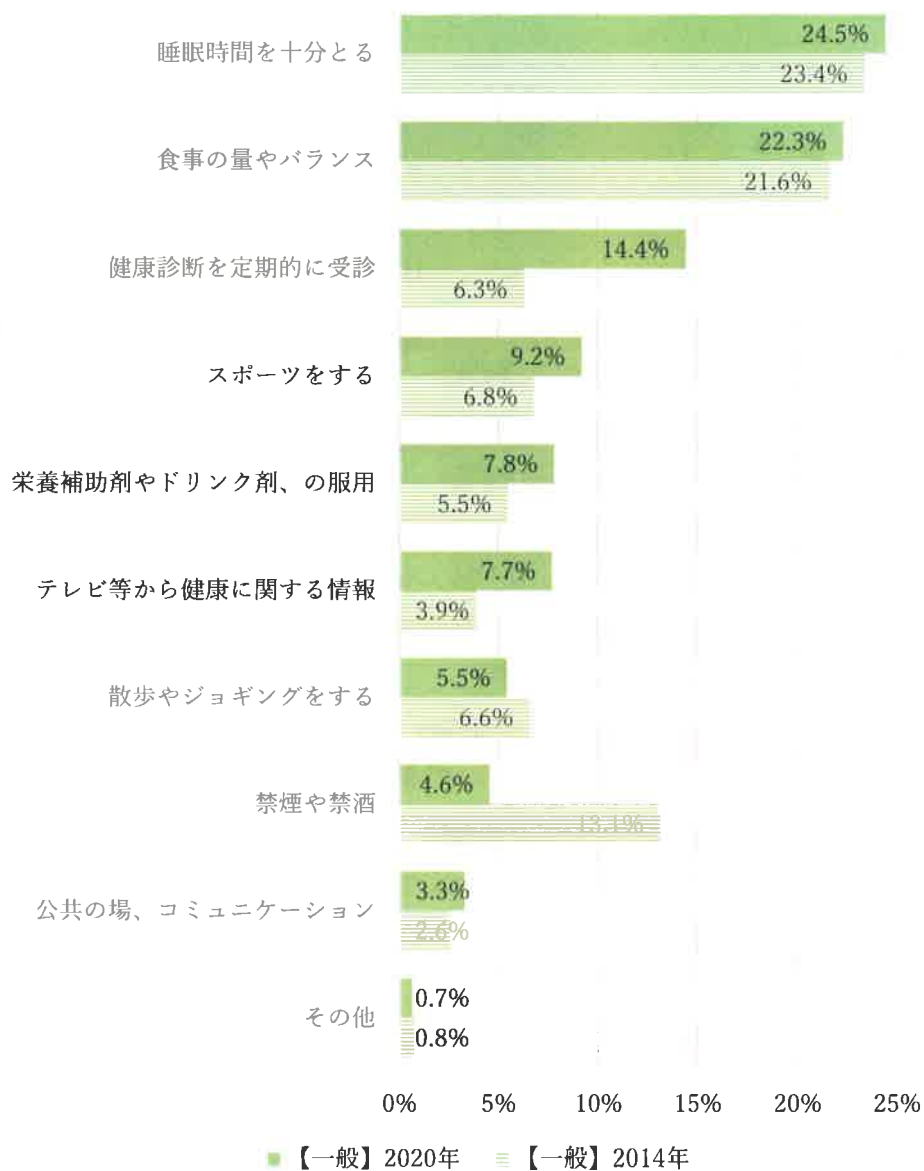
【小中学生】



「睡眠時間を十分にとるようにしている」という回答が37.0%、次に「食事の量やバランスに気を付けている」が24.5%、「スポーツをするようにしている」が24.2%などとなった。一般の回答と異なり、身体を動かす事が健康につながっていると意識している人も多いようだ。2014年と同様の傾向が見られた。

Q.あなたが健康の維持増進のために心がけていることについて3つまでお答えください。

【一般】



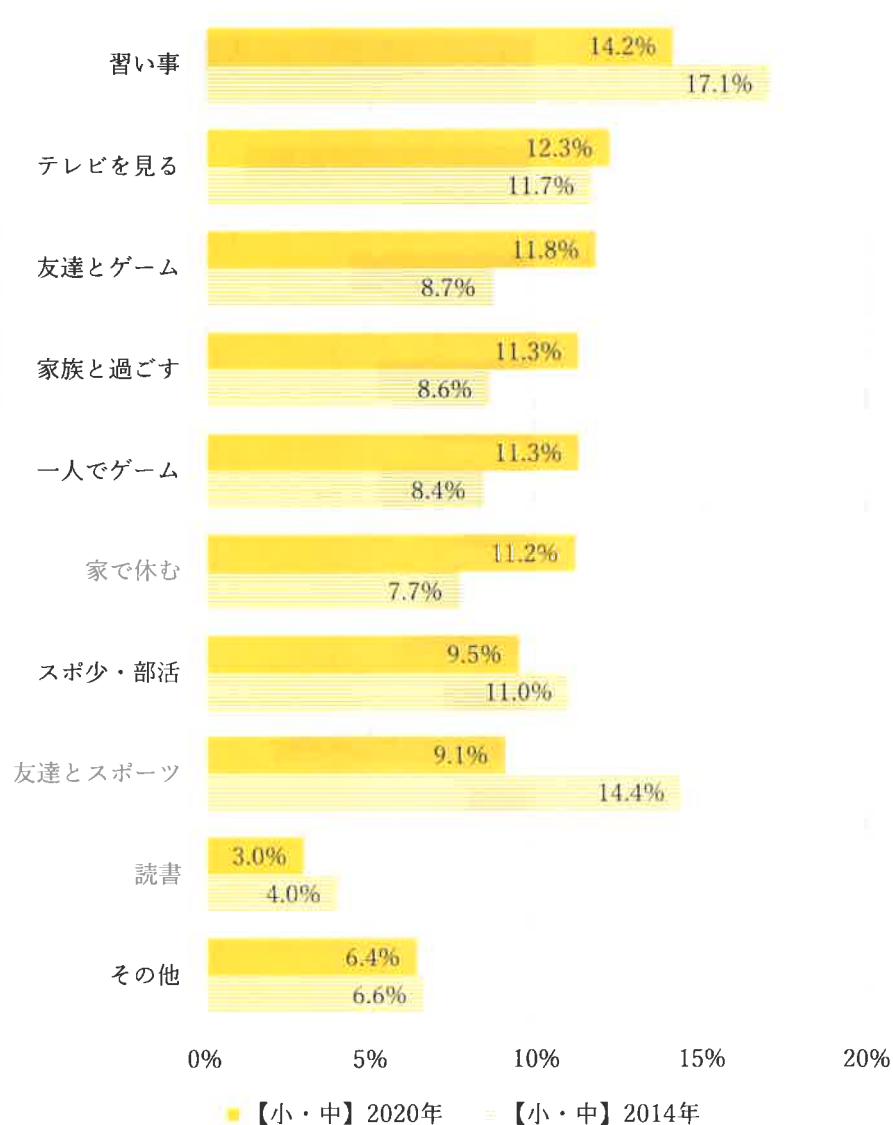
「睡眠時間を十分とるようにしている」という回答が24.5%、次に「食事の量やバランスに気をつけている」が22.3%、「健康診断を定期的に受診」が14.4%と多かった。

2014年と比較すると、喫煙率が下がっていることもあるが「禁煙や禁酒」を心がけている方は減少し、「健康診断を定期的に受診」は8.1ポイント増加した。「スポーツをする」も2.4ポイント増加し、運動を健康維持の手段として意識している人が少し増加した。

2.ライフスタイルについて

Q.あなたの放課後の過ごし方で多いもの2つをお答えください。

【小中学生】

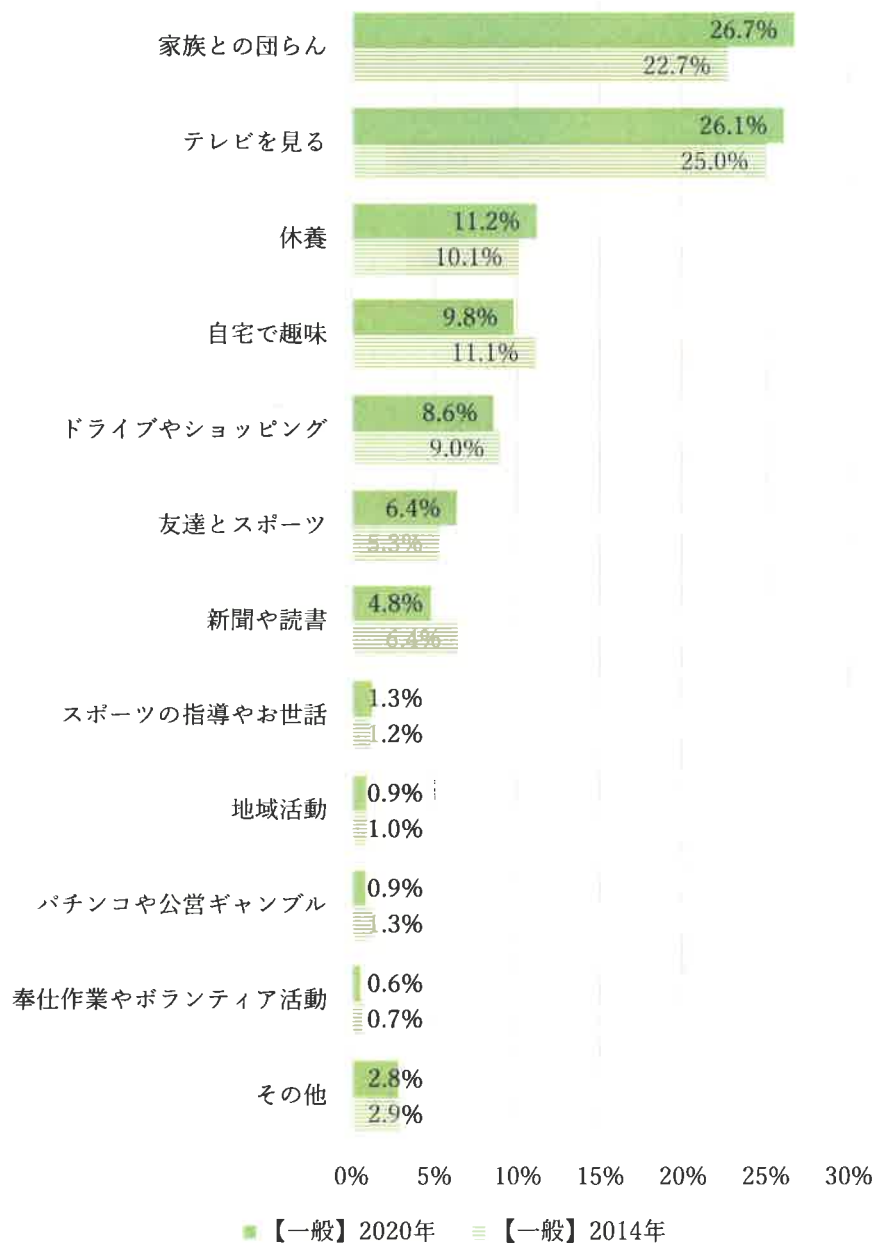


放課後は「習い事」が14.2%で最も多く、次いで「テレビを見る」12.3%、「友達とゲーム」11.8%となった。

2014年と比較すると、「友達とスポーツ」が5.3ポイント減少し、「友達とゲーム」、「一人でゲーム」が6ポイント増加し、スポーツ離れが進んでいる結果となった。

Q.あなたの平日の余暇の過ごし方で多いもの2つをお答えください。

【一般】

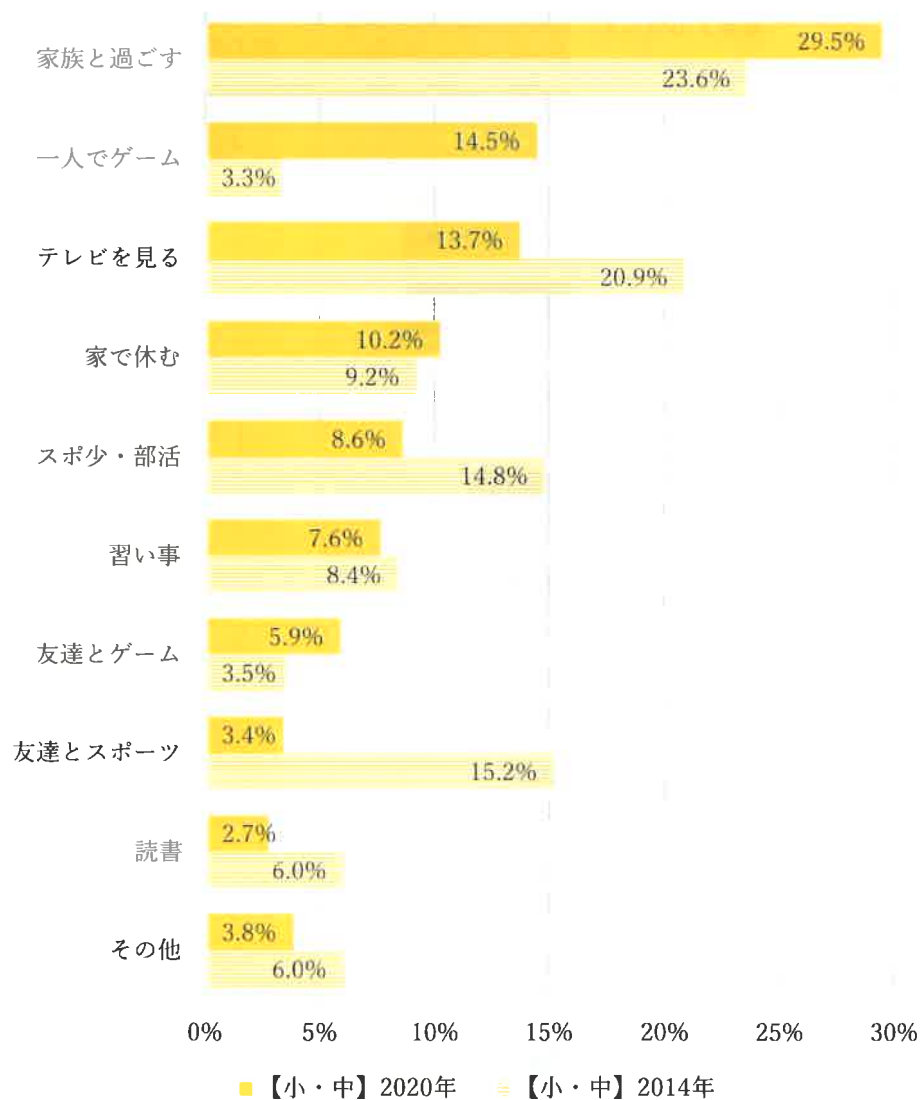


「家族との団らん」が26.7%、「テレビを見る」が26.1%、「休養」が11.2%で全体の6割を占めている。「友達とスポーツ」が6.4%、「スポーツの指導やお世話」が1.3%で、2つ合わせても7.7%となり、2014年と同様にスポーツへの関わりが少ないように見受けられる。

また、2014年と比較し、「自宅での趣味」、「パチンコや公営ギャンブル」が減少し、「家族との団らん」が4ポイント増加した。

Q.あなたの休日の余暇の過ごし方で多いもの2つをお答えください。

【小中学生】

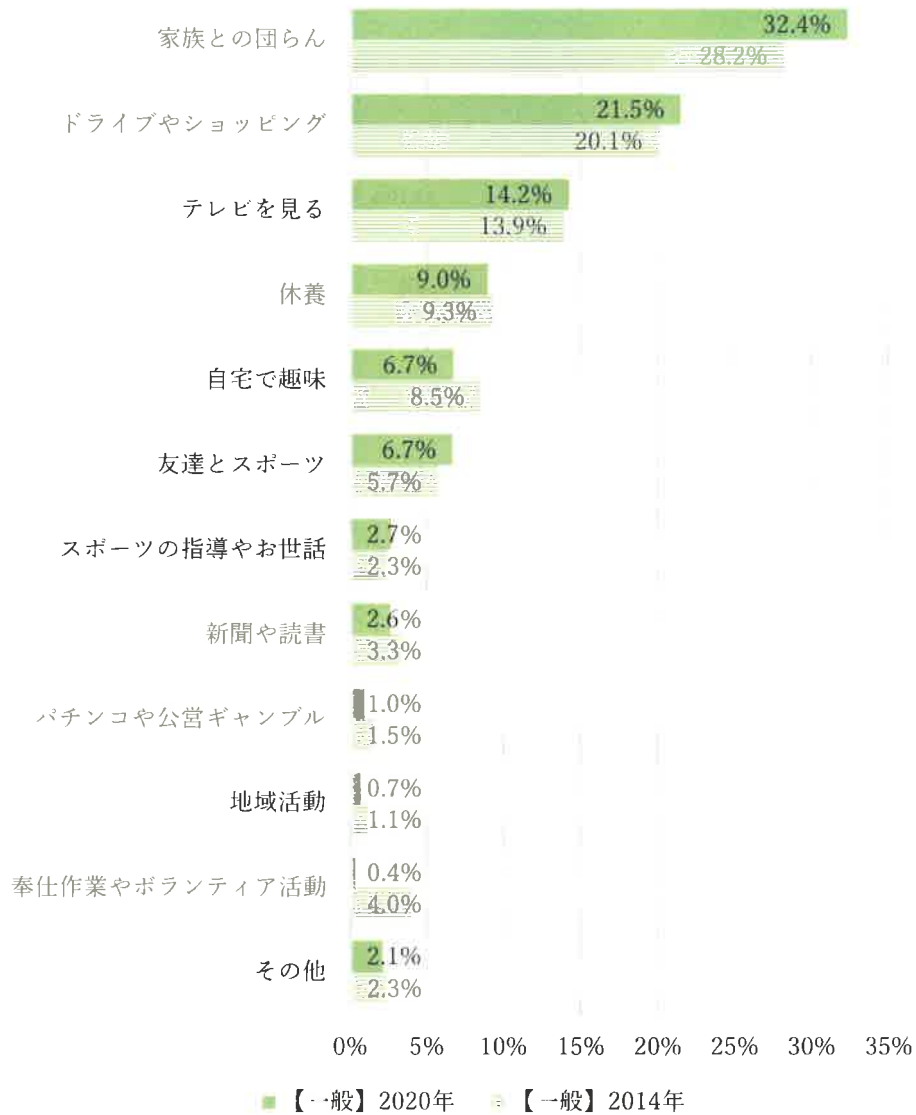


放課後（平日）の余暇の過ごし方とは違い、「家族と過ごす」が29.5%で最も多かった。「スポ少・部活」8.6%、「友達とスポーツ」3.4%が合わせて12%となり、2014年には休日に30%がスポーツを行っていたが、18ポイントも減少した。

休日でも、スポーツ離れの傾向が顕著に見られる。

Q.あなたの休日の余暇の過ごし方で多いもの2つをお答えください。

【一般】



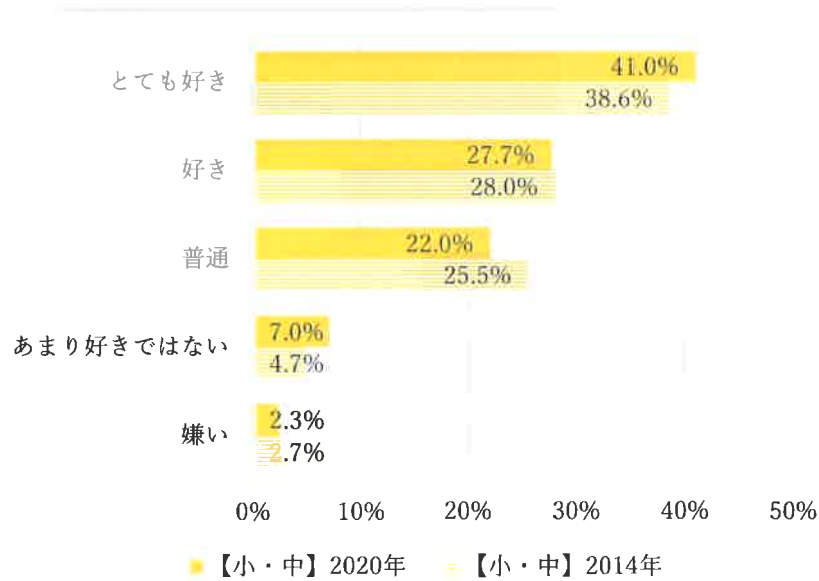
「家族との団らん」が32.4%、「ドライブやショッピング」が21.5%、「テレビを見る」が14.2%と家族で過ごす人が多かった。平日と同様に「友達とスポーツ」や「スポーツ指導のお世話」は少なかった。また、「地域活動」0.7%、「奉仕作業やボランティア活動」0.4%のように社会参加についても少なかった。

2014年と比較して、「地域活動」や「奉仕作業やボランティア」が4ポイント減少し、地域との関わりも少なくなっている。

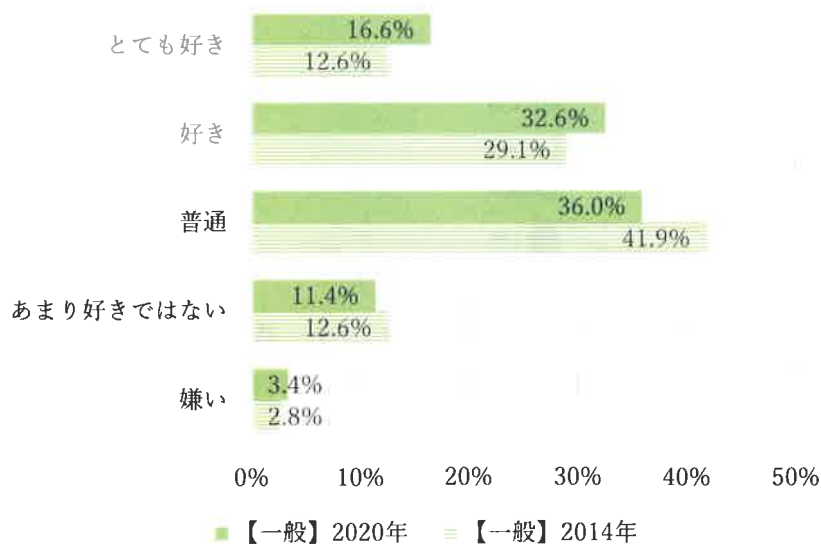
3.運動やスポーツの実施状況について

Q.あなたは、運動やスポーツをすることが好きですか。

【小中学生】



【一般】



【小中学生】

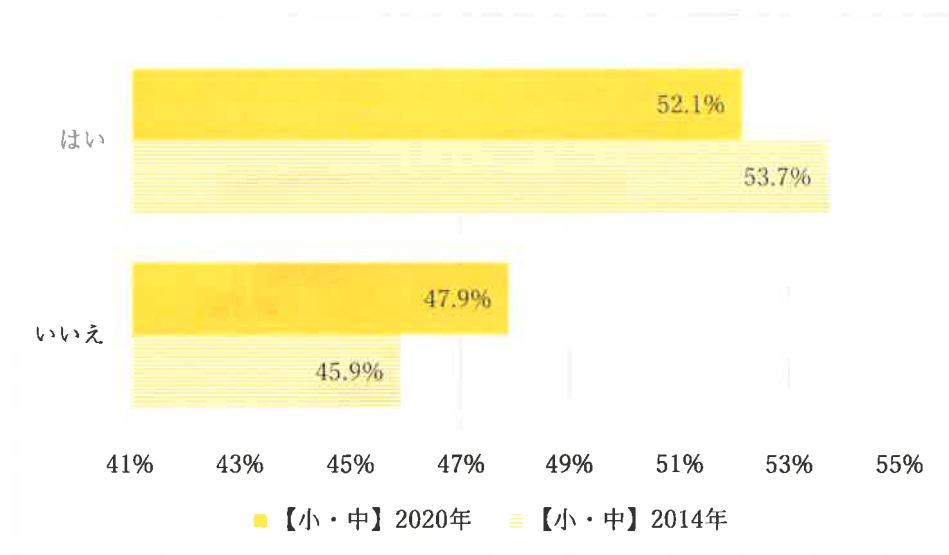
「とても好き」、「好き」、「普通」を合わせると90.7%となりこちらも高い割合を示した。2014年と比較して、「とても好き」と回答した小中学生が2.4ポイント増加した。実際運動する機会は少ないが、身体を動かすことには興味があるという結果となった。

【一般】

「とても好き」、「好き」、「普通」を合わせると85.2%ととても高い割合を示した。8割以上がスポーツをすることが好きであると言える。

Q.あなたは習い事で運動やスポーツをしていますか。

【小中学生】



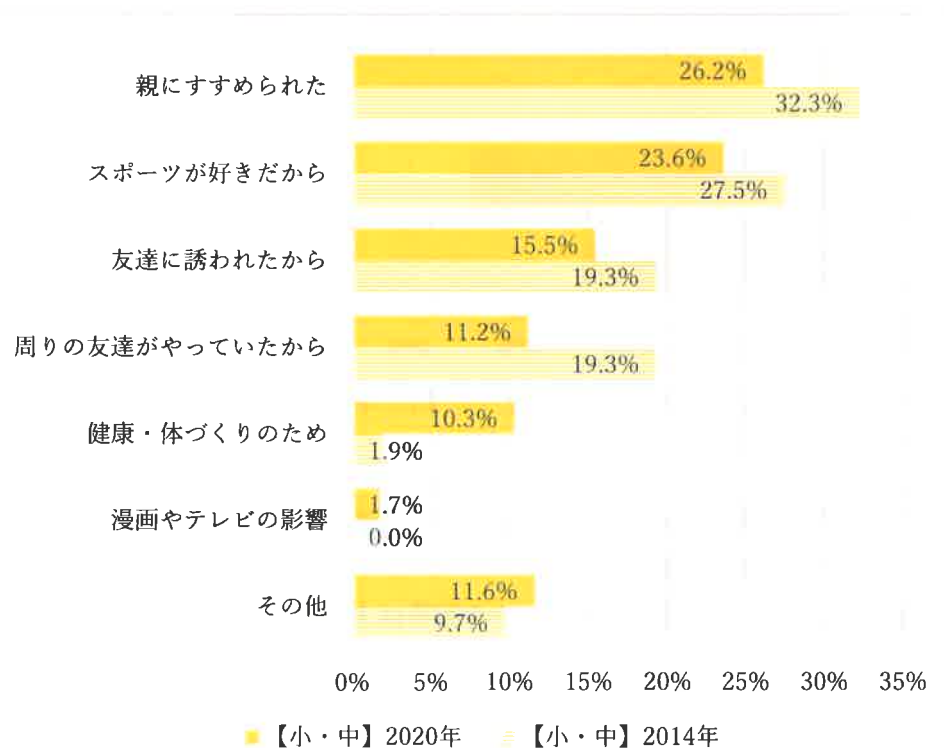
習い事として運動やスポーツをしている小中学生は 52.1%と多く、指導者のもとで運動やスポーツに取り組んでいる子どもが多いと思われる。

2014年と比較すると、スポーツの習い事をしている回答は 1.6 ポイント減少した。

Q.「あなたは習い事で運動やスポーツをしていますか」の問いで「はい」とお答えした方のみに質問します。

習い事で運動やスポーツを始めたきっかけを教えてください。

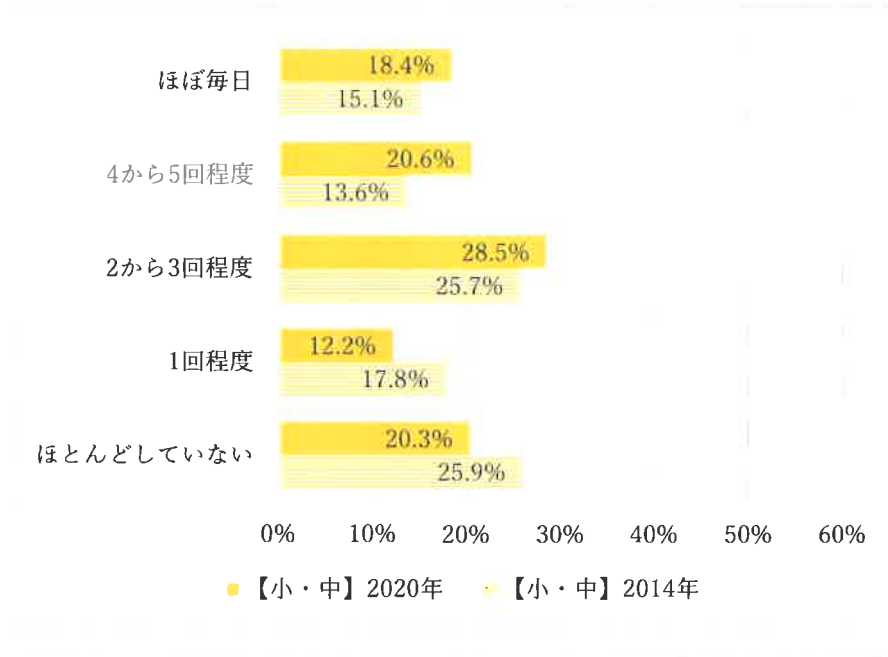
【小中学生】



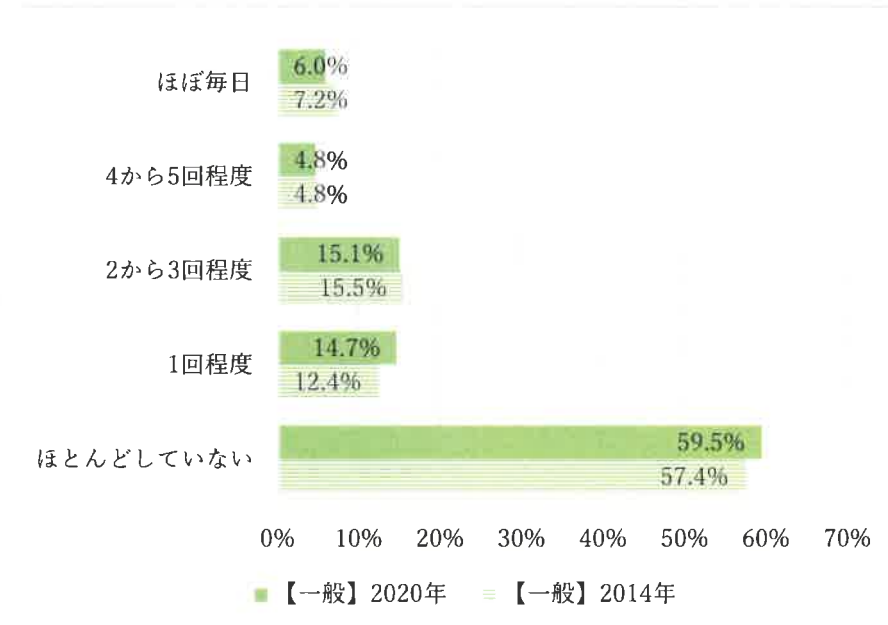
習い事を始めたきっかけは、「スポーツが好きだから」(23.6%)という自発的な意欲よりも「親にすすめられた」(26.2%)という理由で始めている人が多かった。他にも「友達に誘われたから」(15.5%)、「周りの友達がやっていたから」(11.2%)となった。2014年と比較しても同様に、保護者のスポーツや運動に関する理解も子どもの動機付けとしては重要である。

Q.あなたは平均すると1週間にどれくらい運動やスポーツをしていますか。
 している場合は主な種目を2つお書きください。

【小中学生】



【一般】



【小中学生】

スポーツ実施率は79.7%で一般のスポーツ実施率40.5%を大きく上回る結果となった。2014年と比較すると、スポーツ実施率は5.6ポイント増加した。

【一般】

スポーツ実施率は文部科学省が提唱している「できるかぎり早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人(65%)」の65%を大きく下回る40.5%という結果となった。2014年と比較しても、ほぼ同じ結果となっており、スポーツ実施率を上げていく必要がある。

主な種目として、上位にあがったのは以下の通りである。

【小中学生】

- ・縄跳び (67 人)
- ・サッカーやフットサル (50 人)
- ・水泳 (49 人)
- ・ランニングやジョギング (39 人)
- ・野球 (37 人)

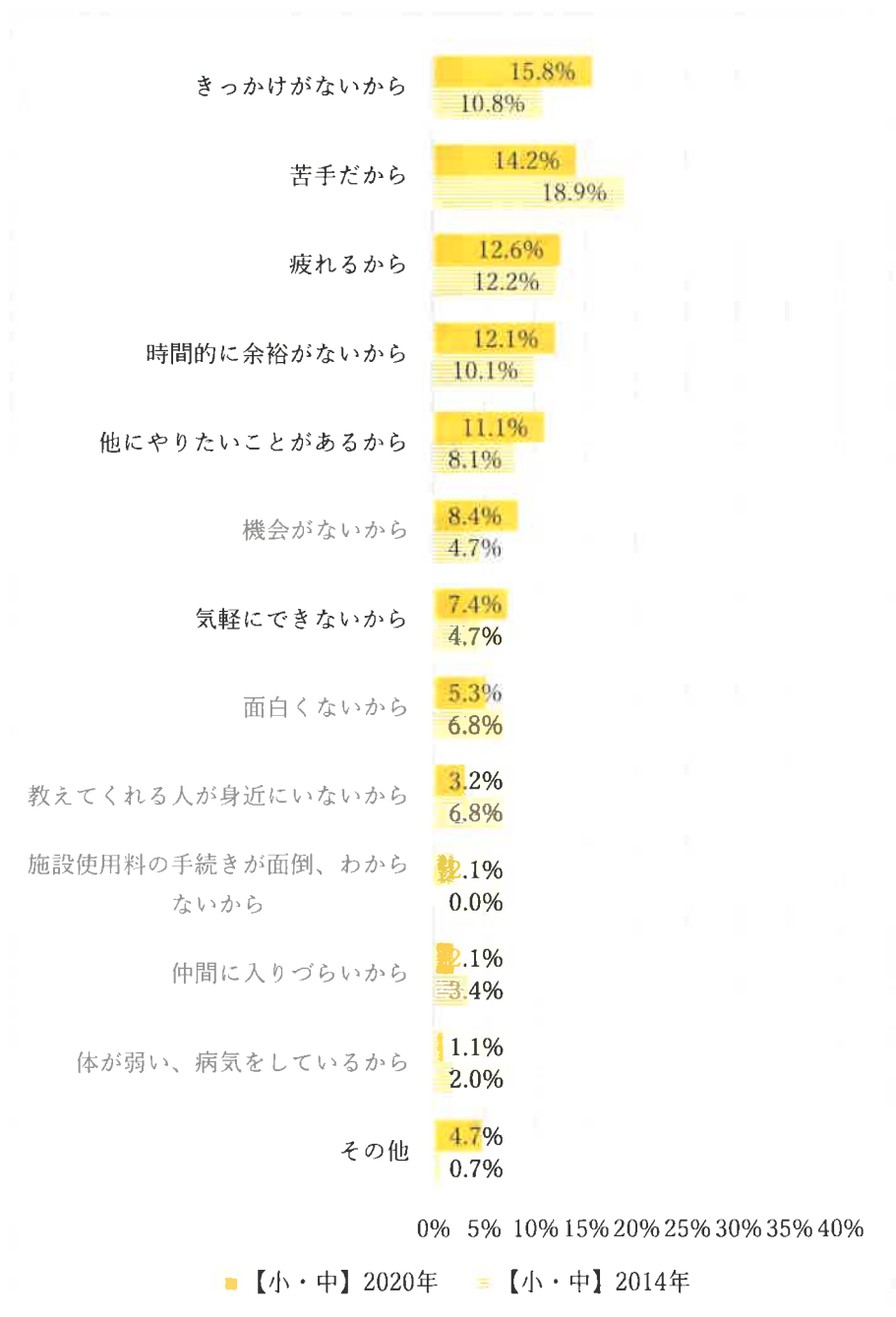
【一般】

- ・ウォーキングや散歩 (102 人)
- ・筋力トレーニングやジム (71 人)
- ・ランニングやジョギング (52 人)
- ・サッカーやフットサル (25 人)
- ・バレーボール (16 人)

Q.「あなたは平均すると1週間にどれくらい運動やスポーツをしていますか」の問いで「ほとんどしていない」とお答えした方のみ質問します。

運動やスポーツをしていない理由はなんですか。2つお答えください。

【小中学生】



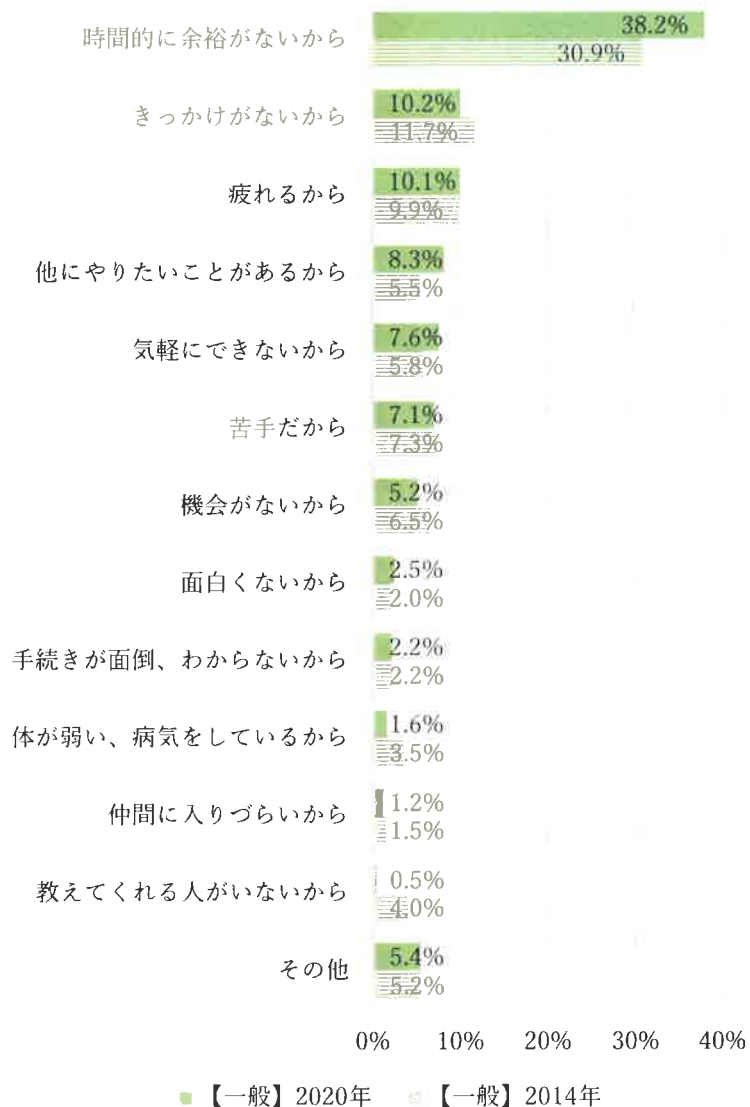
「きっかけがないから」15.8%、「苦手だから」14.2%、「疲れるから」12.6%という理由が高い割合を示した。また、「時間的に余裕がないから」と「他にやりたいことがあるから」も割合が高く、スポーツ以外のものに興味があるようである。

2014年と比較し、「きっかけがないから」が5ポイント増加し、スポーツを始めるきっかけづくりに力を入れていく必要がある。

Q.「あなたは平均すると1週間にどれくらい運動やスポーツをしていますか」の問いで「ほとんどしていない」とお答えした方のみ質問します。

運動やスポーツをしていない理由はなんですか。2つお答えください。

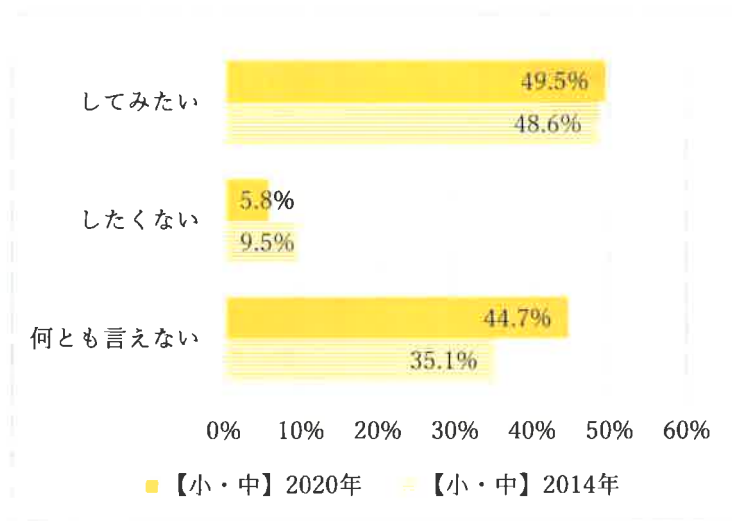
【一般】



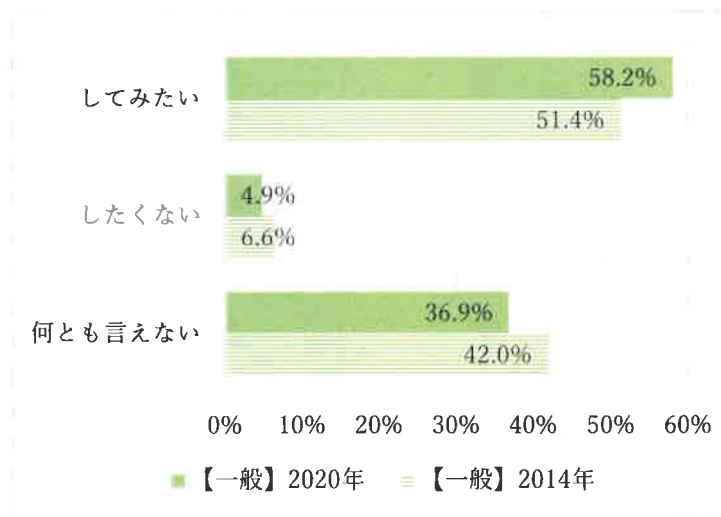
運動やスポーツを実施しない理由として「時間的に余裕がないから」38.2%、「きっかけがないから」10.2%、「疲れるから」10.1%と高い割合を示した。「疲れるから」「苦手だから」「面白くないから」の運動嫌いの理由の割合を合わせると19.7%と高い割合を示していることも分かった。

Q.「あなたは平均すると1週間にどれくらい運動やスポーツをしていますか」の問いで「ほとんどしていない」とお答えした方のみ質問します。条件が整えば、今後運動やスポーツをやりたいと考えますか。

【小中学生】



【一般】



【小中学生】

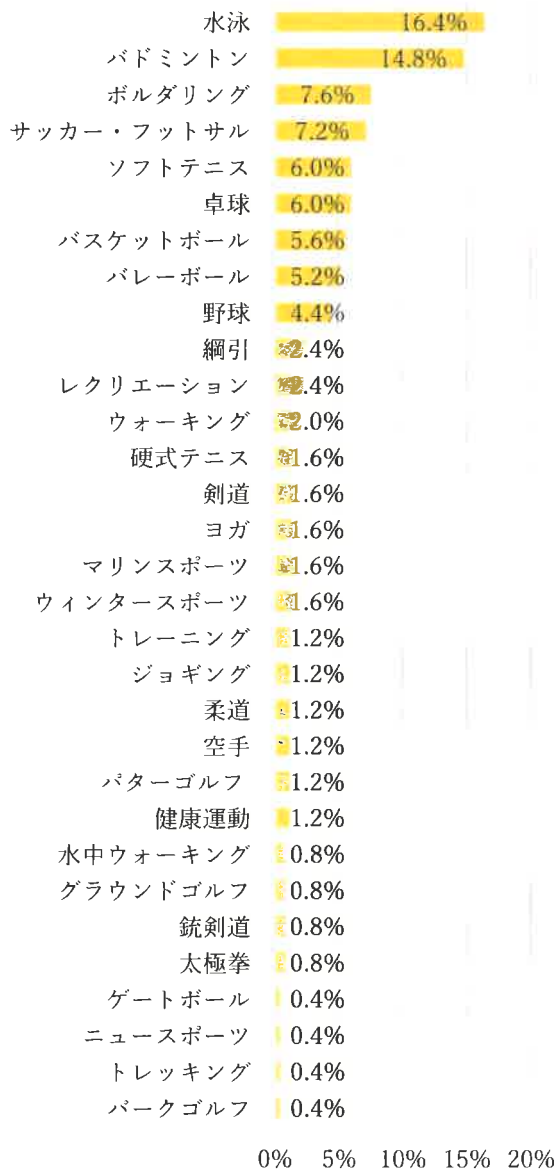
ほとんど運動を「していない」と回答した子どもたちの44.7%は、「何とも言えない」と回答しており、環境が整ってもスポーツへの関心は低いようである。2014年と比較しても、「何とも言えない」は9.6ポイント高くなっている。

【一般】

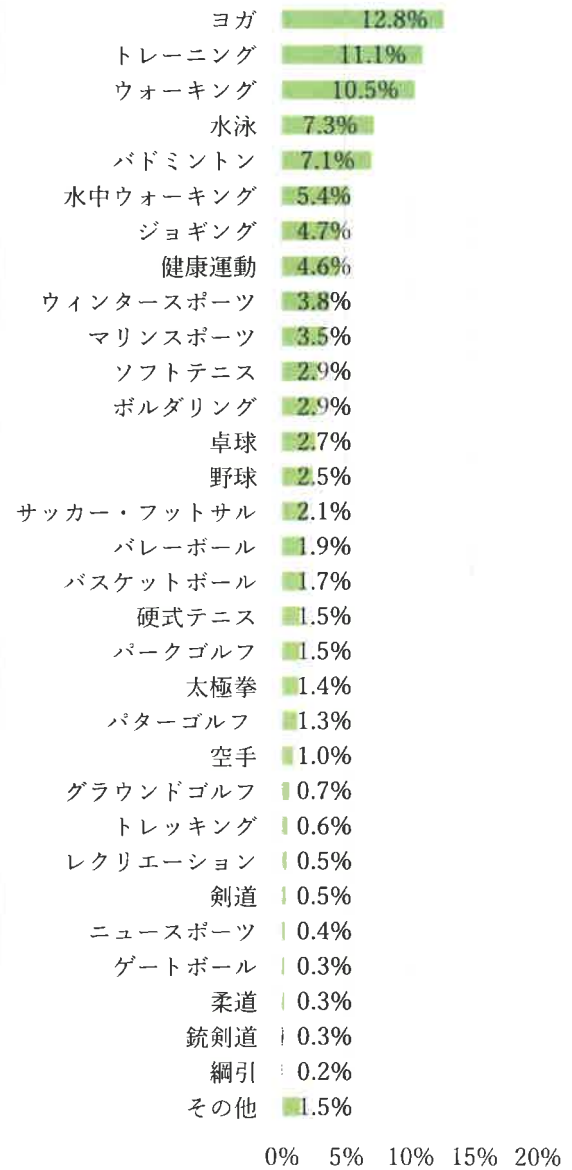
今後運動を「してみたい」という回答は半数を上回る58.2%という結果が出た。運動実施への意欲は2014年と比較しても、6.8ポイント高くなっており、運動意欲は増しているようだ。

Q.「あなたは平均すると1週間にどれくらい運動やスポーツをしていますか」の問いで「ほとんどしていない」とお答えした方のみ質問します。あなたが今後運動やスポーツをしたら、やってみたい種目は何ですか。3つまでお答えください。

【小中学生】



【一般】



【小中学生】

今後実施したい種目として「水泳」が16.4%、次いで「バドミントン」14.8%、「ボルダリング」7.6%、「サッカー・フットサル」7.2%、「ソフトテニス」・「卓球」がそれぞれ6.0%で上位を占めた。

【一般】

現在「ほとんど運動やスポーツを実施していない」と回答した人の中で、今後行うとしたら「ヨガ」が12.8%で最も高く、次いで「トレーニング」11.1%、「ウォーキング」10.5%、「水泳」7.3%、「バドミントン」7.1%という結果になった。

【実施してみたい種目について】

小中学生、一般に共通して言えることは、個人種目を希望する回答率が高かった。また、ヨガやボルダリングなど、最近人気のスポーツが上位にきたことから、時代に沿っていると言える。

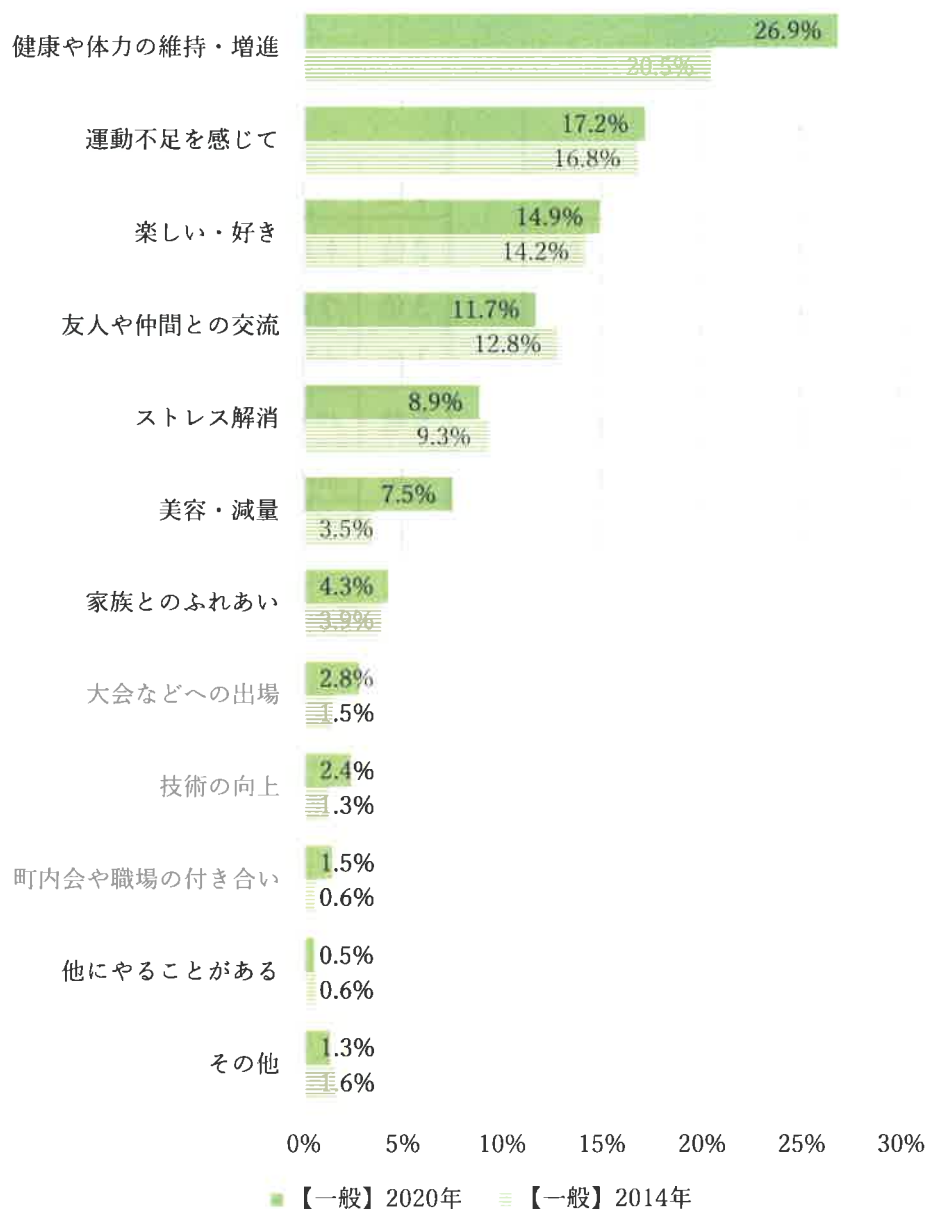
「水泳」「バドミントン」「サッカー」「ソフトテニス」「卓球」はアクアゆめクラブの教室やスポーツ少年団、クラブチーム等で活動しているため、今後会員や団員が増え、更に実施率が上がることも期待できる。

小中学生の上位		
1位	水泳	16.4%
2位	バドミントン	14.8%
3位	ボルダリング	7.6%
4位	サッカー・フットサル	7.2%
5位	ソフトテニス	6.0%
5位	卓球	6.0%
7位	バスケットボール	5.6%

一般の上位		
1位	ヨガ	12.8%
2位	トレーニング	11.1%
3位	ウォーキング	10.5%
4位	水泳	7.3%
5位	バドミントン	7.1%
6位	水中ウォーキング	5.4%
7位	ジョギング	4.7%

Q.「あなたは平均すると1週間にどれくらい運動やスポーツをしていますか」の問いで「ほとんどしていない」以外をお答えした方に質問します。あなたは主にどのような理由で運動やスポーツをしていますか。2つまでお答えください。

【一般】

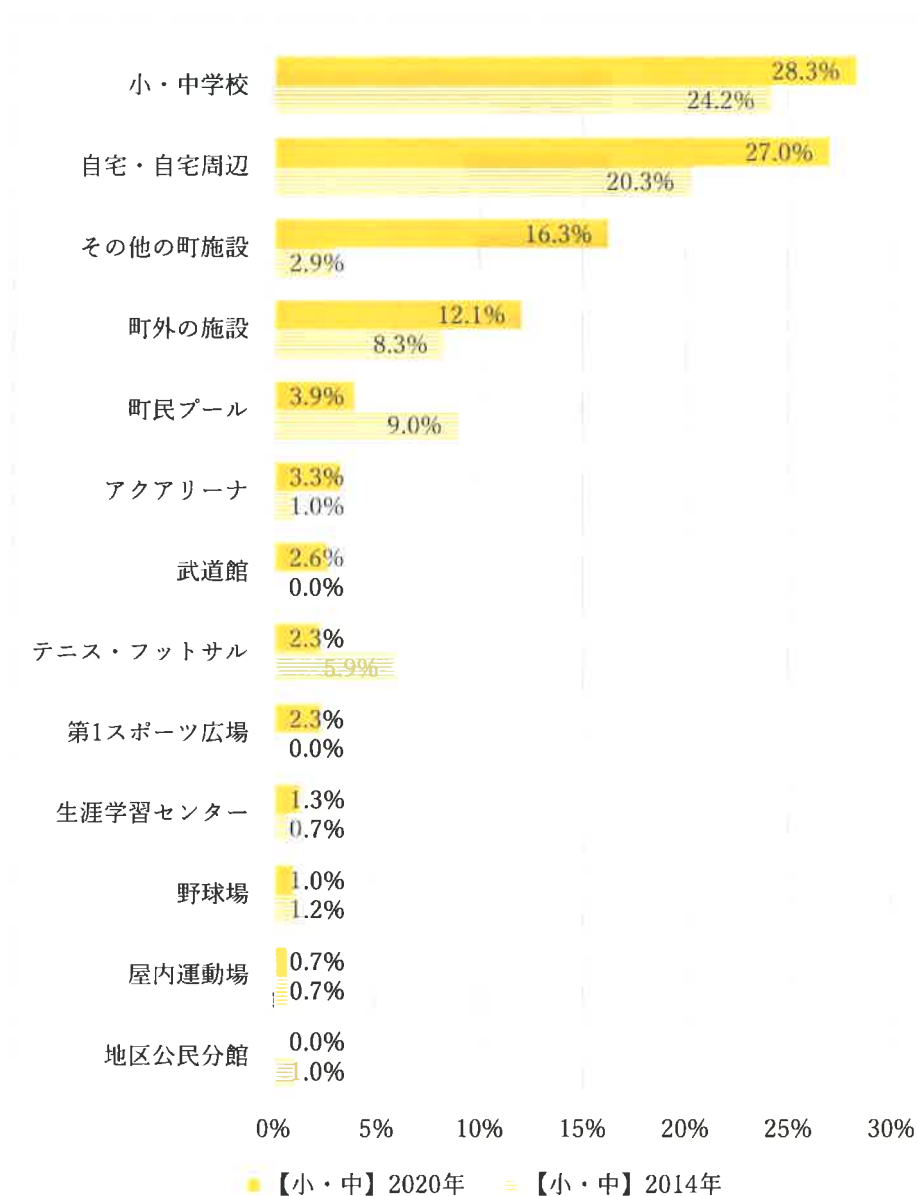


運動やスポーツを実施している理由として、「健康や体力の維持・増進」が26.9%と最も多く、次いで「運動不足を感じて」17.2%と、「楽しい・好き」が14.9%、「友人や仲間との交流」11.7%などとなった。

2014年と比較しても、ほぼ同じような結果となった。

Q.「あなたは平均すると1週間にどれくらい運動やスポーツをしていますか」の問いで「ほとんどしていない」以外をお答えした方に質問します。あなたが運動やスポーツをする場所で最も多いのはどこですか。

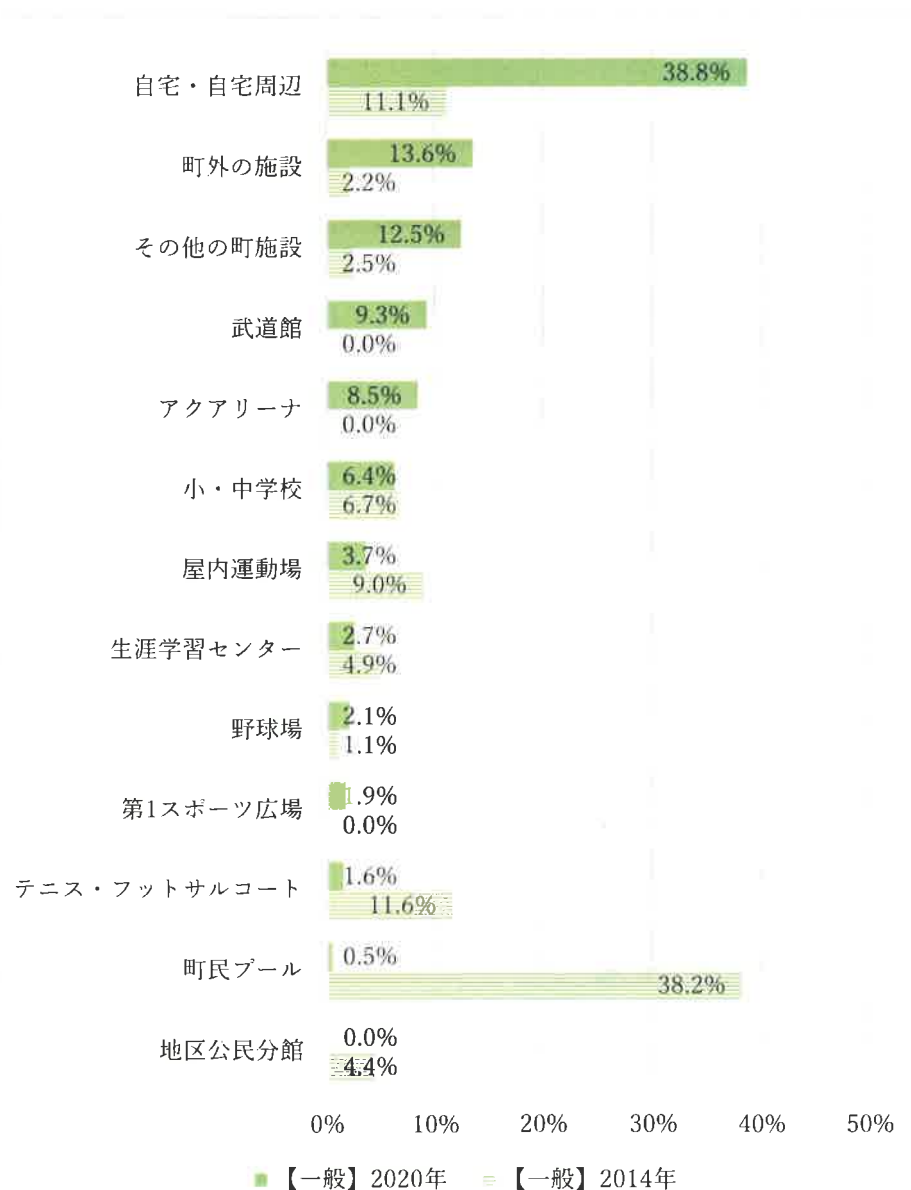
【小中学生】



「自宅及びその周辺」、「小中学校」で運動をしているという回答が54.9%と高い割合を示した。2014年と比較しても、ほぼ同様の結果が得られた。

Q.「あなたは平均すると1週間にどれくらい運動やスポーツをしていますか」の問いで「ほとんどしていない」以外をお答えした方に質問します。あなたが運動やスポーツをする場所で最も多いのはどこですか。

【一般】

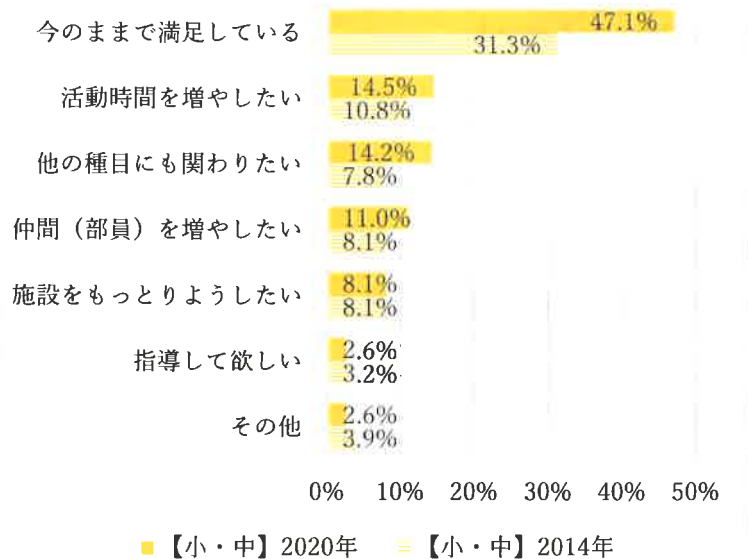


「自宅及びその周辺」が最も多く 38.2%であった。次いで「町外の施設」13.4%、「町の施設」、「武道館」、「アクアリーナ」と続いた。

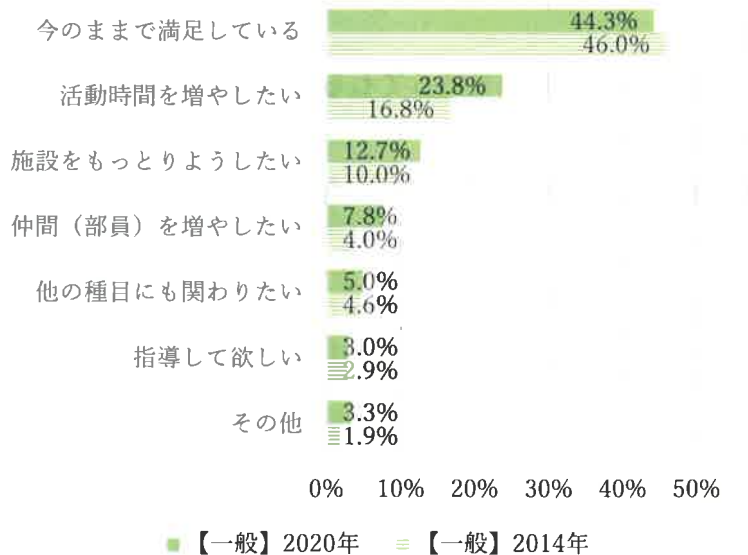
2014年と比較し、「町民プール」の利用が大幅に減少したが、2019年度の大規模改修工事の影響と思われる。また、「自宅及びその周辺」が27.1ポイントも上昇し、施設を利用せず、個人で運動やスポーツを行っている可能性が高い。

Q.「あなたは平均すると1週間にどれくらい運動やスポーツをしていますか」の問いで「ほとんどしていない」以外をお答えした方に質問します。あなたが運動やスポーツをする上での望みは何ですか。

【小中学生】



【一般】



【小中学生】

運動を実施している子どもたちのうち、「今のままで満足している」は47.1%、次いで「活動時間を増やしたい」が14.5%であった。2014年と比較すると「他の種目にも関わりたい」が6.4ポイントも増加し、多種目を実施したいと望む傾向があるようだ。

【一般】

運動を実施している人たちは現状のままで満足していることが分かる。他には、「活動時間を増やしたい」が23.8%と多く見られた。

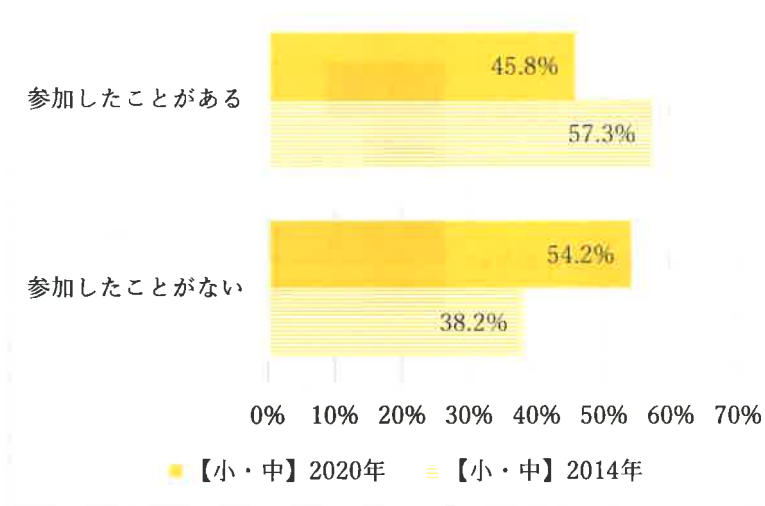
2014年と比較すると、「仲間を増やしたい」が3.8ポイント増えた。

Q.あなたが「こんなイベントに参加してみたい」ということをお答えください。

- ・フードマラソン、フードウォーク、
- ・ランニングイベント、防潮堤ウォーク
- ・インフルエンサーを招いたイベント
- ・ビーチフェス
- ・音楽イベント
- ・水泳大会、釣り大会
- ・スケートボード大会
- ・地区対抗バレーボール大会、卓球大会
- ・映画の上映
- ・町民祭、町民運動会
- ・ドライビングシアター
- ・親子と一緒に参加できるイベント、親子マラソン大会
- ・歴史の場所巡り
- ・ヨガイベント、ビーチヨガ、満月ヨガ
- ・フリーマーケット
- ・子ども達をもっとスポーツに興味を持ってもらえる為のイベント
- ・ラーメンフェスティバル
- ・ケータリングカーが多く出店するイベント、食フェス
- ・登山

Q.あなたは「アクアゆめクラブ」の教室やイベントに参加したことがありますか。

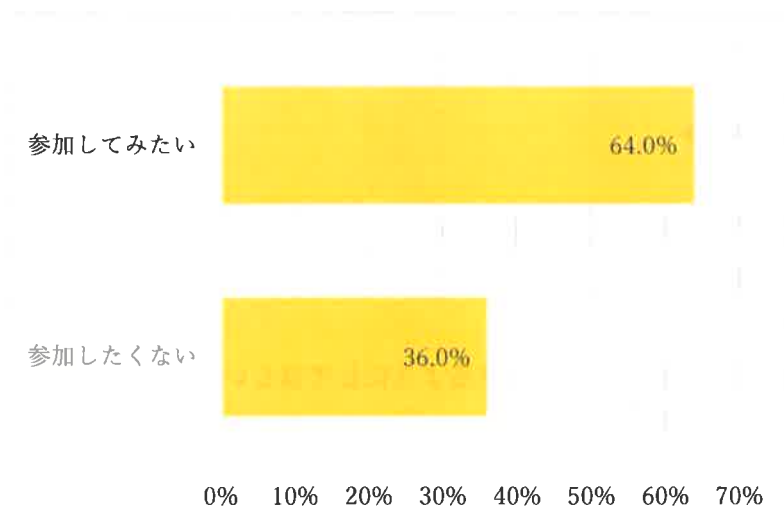
【小中学生】



アクアゆめクラブの教室には「参加したことがない」が54.2%だった。2014年と比較しても、参加したことがある人は半数以下で、まだまだ認知度は低いため、今後もしっかりとPRをしていかなければならない。

Q.今後「アクアゆめクラブ」の教室やイベントに参加したいと思いますか。

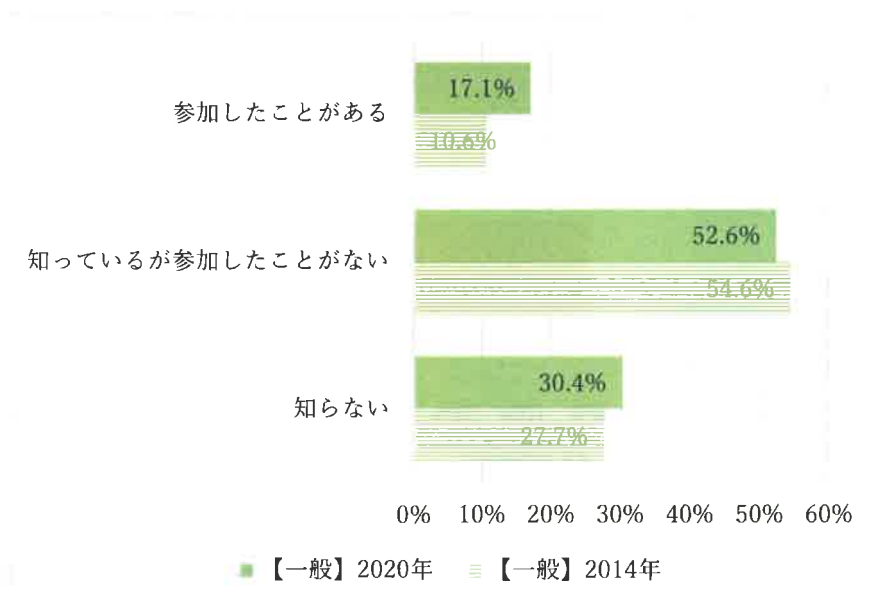
【小中学生】



今後アクアゆめクラブの教室やイベントには「参加してみたい」が64.0%だった。期待値は高いので、子どもたちのスポーツへのきっかけづくりや体力の向上、またクラブ会員の増加に繋がるような教室運営やイベントを考えていく必要がある。

Q.あなたは「アクアゆめクラブ」の教室やイベントに参加したことがありますか。また期待することがあれば記入して下さい。

【一般】



アクアゆめクラブの教室や活動は「知っているが参加したことがない」52.6%と認知はされているが参加までは至っていないことがわかる。2014年と比較し、「参加したことがある」が6.5ポイント増加し、少しではあるが認知度が上がったと推測される。

【アクアゆめクラブに期待すること】

- ・平日の夜にヨガレッスン
- ・町民運動会の復活
- ・様々なスポーツのイベント
- ・料金無料化
- ・オリンピック競技を子どもたちに体験させたい
- ・競技種目を増やしてほしい
- ・スポーツ施設の充実
- ・ホームページで施設の利用状況を確認できるようにしてほしい
- ・若者でも参加しやすい雰囲気にしてほしい

IV. 調査結果のまとめ

1. 健康状態について

七ヶ浜町民は、「健康」「まあまあ健康」だと感じている割合が高く、約半数の方が「ほとんど病院に行かない」「医療費がかかっていない」という結果になった。また、「睡眠時間の確保」「食事への意識」を健康のために心がけている方が多い。5年前と比較し、健康診断の実施率が上がり、健康のためにスポーツをする人も少し増加したようだ。

この調査から、七ヶ浜町民の意識は、生活習慣として睡眠や食事には気を使って健康を維持しており、その結果、病院に行く機会が減り、医療費もかからないということが推測される。ところが、宮城県の調査によると「後期高齢者の医療費」については七ヶ浜町はワースト2位であり、特に高齢者においては、医療を受けている方が多いことが現状である。

2. ライフスタイルについて

一般の「平日・休日の過ごし方」上位は「家族との団らん」「テレビの視聴」「ドライブ・ショッピング」であることから、家族と過ごすことが多いということがわかった。また、スポーツへの関わりは少ないようだ。

小中学生の「平日・休日の過ごし方」上位は「習い事」「家族と過ごす」が多かった。5年前と比較し、「友達とゲーム」「一人でゲーム」の割合が高く、休日におけるスポーツ実施率は大きく減少した。最近の傾向として、家でのゲーム志向が高まり、スポーツ離れが見てとれる。

3. 運動やスポーツの実施状況について

「スポーツをする」ことに関して、「普通」「好き」「とても好き」というプラス傾向に感じている回答率が、一般が85.2%、小中学生が90.7%と非常に高かった。また、小中学生で運動・スポーツを習い事として取り組んでいる子どもが52.1%であり、半数以上の子どもたちが習慣的に指導者のもとで、スポーツ活動に励んでいる。その中の多くは、親の勧めや友達からの誘いがきっかけで、スポーツを始めている。

スポーツ実施率について、一般は「40.5%」小中学生は「79.7%」となり、5年前の調査（一般41.1%、小中学生83.5%）よりも低い割合となった。

運動・スポーツをする理由として、「健康・体力の維持増進」「運動不足を感じて」「楽しい・好き」「友人や仲間との交流」が上位となり、健康への意識の高さや一緒に活動する仲間がいることが、運動やスポーツをする動機づけとなっている。

また、運動・スポーツをほとんどしない理由では、一般は「時間がない」「きっかけがない」「疲れる」が上位となり、小中学生は「きっかけがない」「苦手」「疲れる」が大きな理由となった。スポーツをするに関して、マイナスなイメージが行動を制限している要因であることが分かった。また、小中学生に関しては、「他にやりたいことがあるから」の割合も高く、運動やスポーツ以外のものに興味や関心

があるようだ。

しかし、一般・小中学生とも多くの方が、条件を整えばスポーツをしたいと回答している。今後やってみたい種目の上位は一般が「ヨガ」「トレーニング」「ウォーキング」、小中学生は「水泳」「バドミントン」「ボルダリング」となった。「ヨガ」や「ボルダリング」は近年、特に人気のスポーツであり、一般・小中学生共に、個人種目への関心が高いことから、他者に捉われずに自分のペースで実施できることが、スポーツ参加への動機づけになる。

4. その他

町内のスポーツ情報に関する収集方法について、「町広報誌」が一般（36.2%）、小中学生（17.7%）で多く、「ホームページ・SNS」が一般（34.4%）、小中学生（28.3%）となったことから、ホームページやSNSでの告知が5年前と比べ、非常に有効なツールとなった。情報を発信する際は、広報誌とWEBの両方で打ち出すとより効果が期待できる。また、口コミの割合が高いことも、七ヶ浜町の人口密度の高さや地域性も影響しているかもしれないが、近所づきあいや人間関係が良好であるとも言える。